


資料編



I. 前プランの概要

計画期間	平成 25 年度（2013 年度）から令和 4 年度（2022 年度）までの 10 年間 ※平成29年度(2017年度)に統計データ・目標値の更新や新たな取組の追加等の改定を実施																																																							
目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 札幌の特性を備えた魅力を十分に活用し、札幌の観光コンテンツの充実・強化と付加価値の向上を図ることにより市民や来訪者にとって魅力的なまちづくりを推進 ✓ 集客交流人口の増加に伴う観光関連収入の確保により、観光を契機とした札幌・北海道内の経済循環と外貨獲得を実現 ✓ 観光の担い手となる多様な主体同士の結びつきを強め、観光まちづくりの展開において横断的な連携を図ることができるような体制と仕組みを構築 																																																							
目標像 図表 21	<p style="text-align: center;">「産民学官が連携する観光まちづくりの実現」</p> 																																																							
成果指標 図表 22	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">数値指標</th> <th>単位</th> <th>改定時：2016 年度</th> <th>目標値：2022 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">年間来客数</td> <td>年間来客数</td> <td>万人</td> <td>1,388</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>道内客</td> <td>万人</td> <td>928</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>道外客</td> <td>万人</td> <td>251</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>海外客</td> <td>万人</td> <td>209</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総観光消費額</td> <td>億円</td> <td>5,229</td> <td>7,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">観光消費額単価</td> <td>道内客</td> <td>円</td> <td>20,871</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td>道外客</td> <td>円</td> <td>31,601</td> <td>50,000</td> </tr> <tr> <td>海外客</td> <td>円</td> <td>122,219</td> <td>120,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均滞在日数（国内客）</td> <td>日</td> <td>1.13</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均滞在日数（海外客）</td> <td>日</td> <td>1.20</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td colspan="2">再訪意欲</td> <td>%</td> <td>48.8</td> <td>66.0</td> </tr> </tbody> </table>	数値指標		単位	改定時：2016 年度	目標値：2022 年度	年間来客数	年間来客数	万人	1,388	1,800	道内客	万人	928	1,000	道外客	万人	251	450	海外客	万人	209	350	総観光消費額		億円	5,229	7,000	観光消費額単価	道内客	円	20,871	23,000	道外客	円	31,601	50,000	海外客	円	122,219	120,000	平均滞在日数（国内客）		日	1.13	1.30	平均滞在日数（海外客）		日	1.20	1.40	再訪意欲		%	48.8	66.0
数値指標		単位	改定時：2016 年度	目標値：2022 年度																																																				
年間来客数	年間来客数	万人	1,388	1,800																																																				
	道内客	万人	928	1,000																																																				
	道外客	万人	251	450																																																				
	海外客	万人	209	350																																																				
総観光消費額		億円	5,229	7,000																																																				
観光消費額単価	道内客	円	20,871	23,000																																																				
	道外客	円	31,601	50,000																																																				
	海外客	円	122,219	120,000																																																				
平均滞在日数（国内客）		日	1.13	1.30																																																				
平均滞在日数（海外客）		日	1.20	1.40																																																				
再訪意欲		%	48.8	66.0																																																				
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 札幌・北海道の魅力を生かした観光の創造 2. 受入サービス・おもてなしの向上と着地型観光の促進 3. 滞在・周遊・再訪を促進する情報提供の強化 4. 未来を創造していくプロモーションの展開 																																																							
重点施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光客の誘致活動の推進 2. MICE 誘致の推進 3. 観光客受入環境の充実及び強化 4. 観光コンテンツの充実と魅力アップ 5. 観光イベントの魅力アップ 																																																							

Ⅱ. 取組結果

① 数値目標の達成状況

大半の数値が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前までは順調に増加しており、一定の取組の成果がみられます。ただし、道外客及び海外客の年間来客数や道外客の観光消費額単価については伸び悩みが見られ課題が残ります。なお、令和元年度（2019年度）以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることから、達成率については平成30年度（2018年度）を基準として記載しています。

図表 23

数値指標	単位	2016 改定時	2017 ¹⁵	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値	
年間来客数	万人	1,388	1,527	1,584	88.0%	1,526	571	789	1,311	1,800	
道内客	万人	928	944	958	95.8%	906	422	584	930	1,000	
道外客	万人	251	326	354	78.7%	378	147	204	360	450	
海外客	万人	209	257	272	77.7%	242	1	1	21	350	
総観光消費額	億円	5,229	5,561	5,780	82.6%	5,215	1,808	2,183	3,195	7,000	
観光消費額 単価	道内客	円	20,871	22,949	22,949	99.8%	22,949	22,949	22,949	22,949	23,000
	道外客	円	31,601	28,198	28,734	57.5%	26,047	26,520	27,847	26,536	50,000
	海外客	円	122,219	106,642	105,606	88.0%	93,627	93,627	93,627	117,891	120,000
平均滞在日数 ^{*1} (国内客)	日	1.13	1.20	1.28	98.5%	1.35	1.27	1.26	1.49	1.3	
平均滞在日数 ^{*1} (海外客)	日	1.20	1.20	1.33	95.0%	1.39	1.82	2.05	2.37	1.4	
再訪意欲	%	48.8	57.4	56.1	85.0%	58.4	60.4	61.9	58.8	66.0	

注記) *1：平均滞在日数＝延べ宿泊者数 ÷ 実宿泊者数

¹⁵ 札幌市の観光客入込数は、道内他市町村と同様に、北海道が策定する「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、各交通機関を利用した乗客数等に観光客率を乗じて算出（観光客入込数＝乗客数等 × 観光客率）。平成29（2017）年度は、この観光客率の見直しを行っており、平成29（2017）年度以降と平成28（2016）年度以前の観光客入込数や道内外の内訳は単純比較できません。

② 重点施策の取組状況

前プランの後期5年間に設定した5つの重点施策と取組結果は次の通りです。ここでも、令和元年度（2019年度）以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることから、達成率については平成30年度（2018年度）を基準として記載しています。

図表 24 | 重点施策 1「観光客の誘致活動の推進」

成果指標	単位	2016 改定時	2017	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値
観光客数 (道外客)	万人	251	326	354	78.7%	378	147	204	360	450
外国人宿泊者数 (海外客)	万人	209	257	272	77.7%	242	1	1	21	350
欧米等からの 宿泊者数	万人	10	12	13	65.0%	16	—	—	2	20

図表 25 | 重点施策 2「MICE 誘致の推進」

成果指標	単位	2016 改定時	2017	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値
国際会議開催件数 (JNTO 基準)	件	115	116	109	83.8%	102	2	0	23	130
インセンティブツアー 誘致支援件数	件	78	86	58	64.4%	69	0	0	29	90

図表 26 | 重点施策 3「観光客受入環境の充実及び強化」

成果指標	単位	2016 改定時	2017	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値
再訪意欲	%	48.8	57.4	56.1	85.0%	58.4	60.4	61.9	58.8	66.0
滞在中の おもてなし満足度	%	81.7	85.0	82.0	91.1%	83.6	81.9	91.8	88.6	90.0

図表 27 | 重点施策 4「観光コンテンツの充実と魅力アップ」

成果指標	単位	2016 改定時	2017	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値
平均滞在日数 (国内客)	日	1.13	1.20	1.28	98.5%	1.35	1.27	1.26	1.49	1.30
平均滞在日数 (海外客)	日	1.20	1.20	1.33	95.0%	1.39	1.82	2.05	2.37	1.40
定山溪温泉 宿泊者数	万人	121	128	118	90.8%	101	36	39	76	130

図表 28 | 重点施策 5「観光イベントの魅力アップ」

成果指標	単位	2016 改定時	2017	2018	達成率	2019	2020	2021	2022 実績	2022 目標値
主要観光イベント 観客数 ^{*1}	万人	1,097	1,037	1,028	85.7%	1,069	—	—	684	1,200
さっぽろ雪まつりの 経済効果 ^{*2}	億円	—	494	—	—	—	—	—	—	550
オータムフェスト 道外在住者認知度	%	11.8	14.0	10.6	53.0%	11.3	10.4	10.9	11.3	20.0

注記) *1 : 雪まつり、ライラックまつり、YOSAKOIソーランまつり、夏まつり、オータムフェスト、ミュンヘン・クリスマス市

*2 : 新型コロナウイルス感染症の影響により、平成 29 年度（2017 年度）より後の経済効果の推計は行っていない

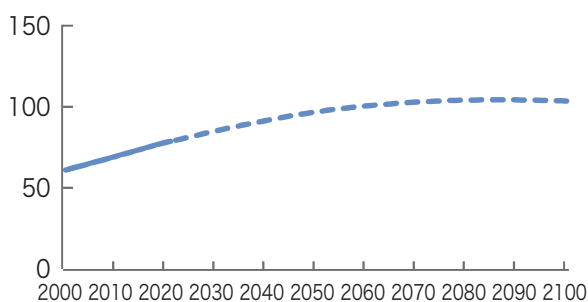
I. 観光・MICE を取り巻く情勢

① 人口動態

世界の人口増加 / 日本の人口減少

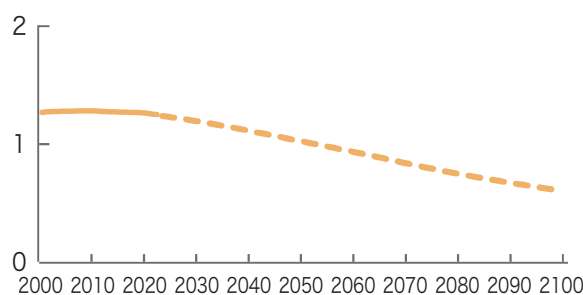
世界の人口は緩やかに増加すると予測されていますが、日本の人口は減少していくことが予測されており、日本人による国内観光需要は縮小していくと見込まれます。また、北海道の人口は、日本の人口より早いペースで減少することが予測されています。そのため、長期的な視点に立つと、日本の観光市場を拡大していくためには外国人の誘客が重要です。

図表 29 | 世界の人口の推移 (億人) ※暦年*



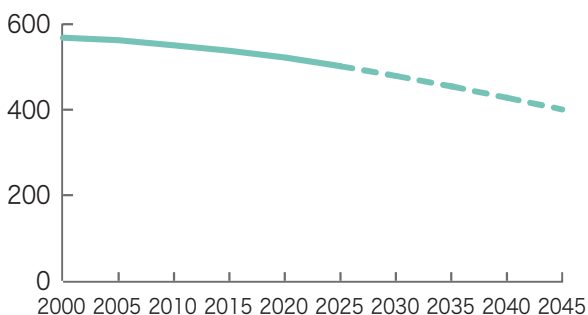
注記 *：令和 3 年（2021 年）まで実測値、それ以降は予測値
出所) UN「World Population Prospects : The 2022 Revision」

図表 30 | 日本の人口の推移 (億人) ※暦年*



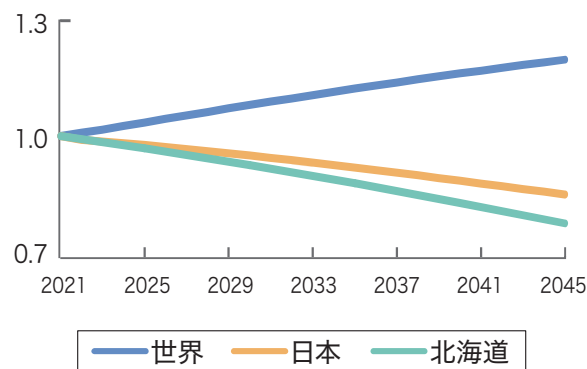
注記 *：令和 4 年（2022 年）までは実測値、それ以降は予測値
出所) 総務省統計局「男女別人口-総人口」
総務省統計局「人口推計 2023 年 2 月報」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29（2017）年推計）」

図表 31 | 北海道の人口推移 (万人) ※暦年*



注記 *：令和 4 年（2022 年）以降は予測
出所) 北海道「北海道人口ビジョン（改訂版）のオープンデータ」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

図表 32 | 令和3年(2021年)を基準とした令和27年(2045年)までの世界・日本・北海道の人口増減率(倍) ※暦年*



注記 *：令和 4 年（2022 年）以降は予測から算出
出所) 図表 29、図表 30、図表 31 より作成

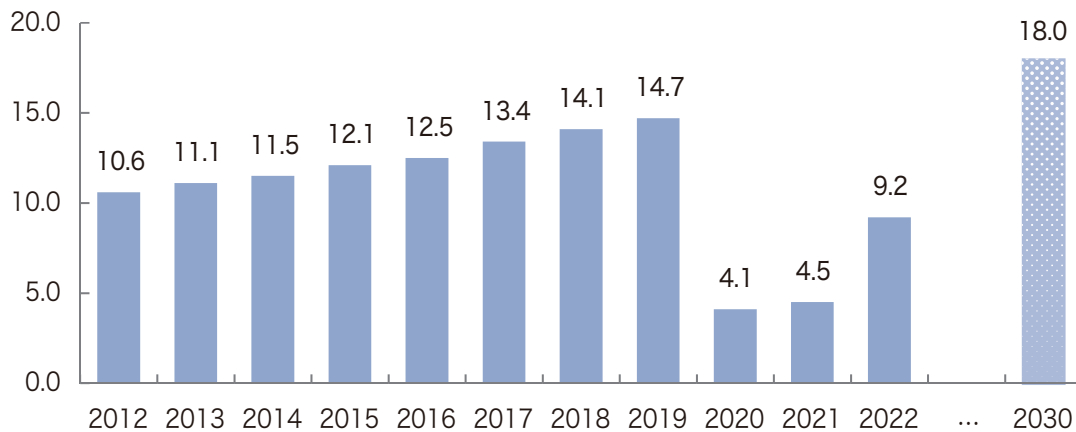
② 観光市場規模の推移

観光市場の規模拡大

UNWTO（国連世界観光機関）によると、世界の国際観光客数は年々増加しており、令和元年（2019年）には14.7億人に達しました。日本においても、延べ訪日外客数は、平成24年（2012年）から令和元年（2019年）まで増加していました。コロナ禍以降、観光客数は激減しましたが、各国の受入再開などによって回復しつつあります。

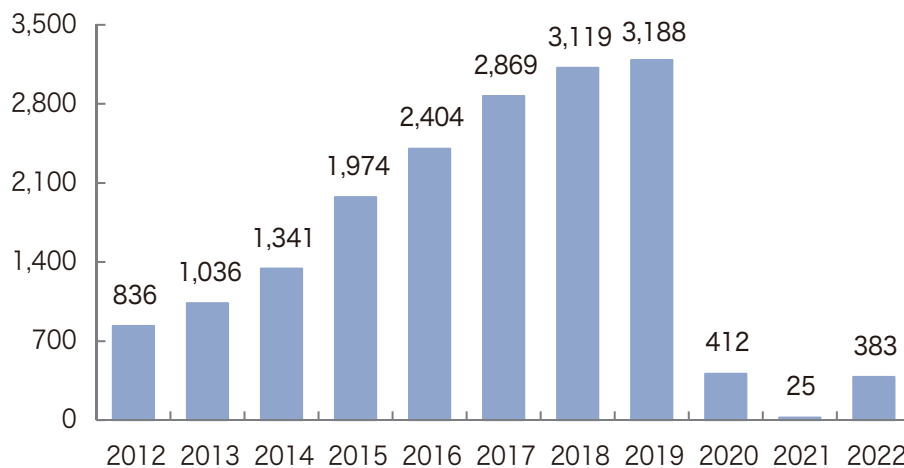
なお、コロナ禍前に発表されたものではありませんが、UNWTOは、世界の国際観光客数は令和12年（2030年）には、18億人に達すると推計しており、長期的には世界の観光市場の規模は拡大していくと見込まれます。

図表 33 | 世界の国際観光客数の推移（億人）※暦年*



注記 *：令和4年（2022年）までは実測値、令和12年（2030年）は予測値
 出所 実測値：UNWTO「TOURISM DATA DASHBOARD」
 予測値：UNWTO「Tourism Highlights 2017 Edition」

図表 34 | 延べ訪日外客数の推移（万人）※暦年*

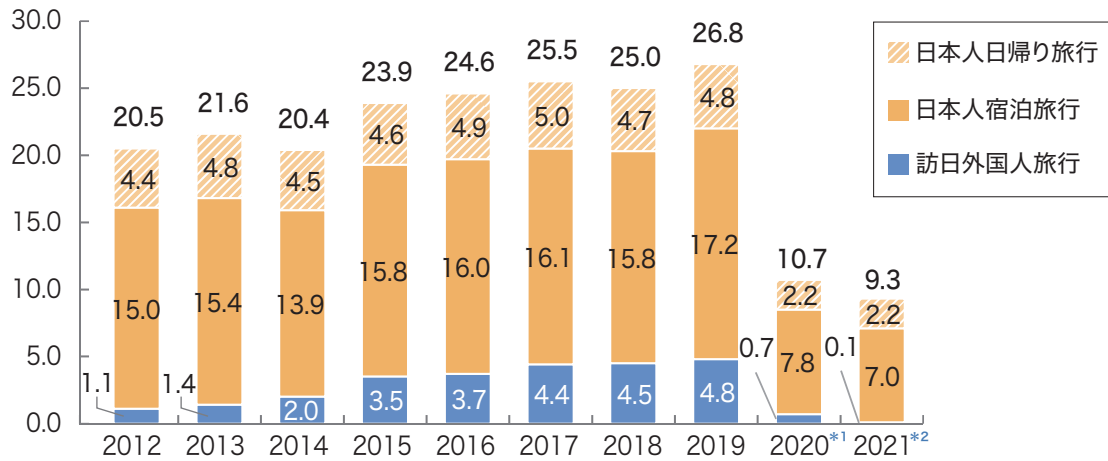


注記 *：令和4年（2022年）は令和5年（2023年）1月時点の年間推計値
 出所 平成24年（2012年）から令和3年（2021年）：JNTO「日本の観光統計データ」
 令和4年（2022年）：JNTO「訪日外客統計（報道発表資料）2022年12月推計値」

日本国内の旅行消費額は、平成 26 年（2014 年）は 20 兆円前後でしたが、訪日外国人旅行による旅行消費額の拡大により、令和元年（2019 年）には 26.8 兆円まで拡大しました。

また、旅行消費額に占める訪日外国人旅行の割合は増加し、令和元年（2019 年）には約 2 割となりましたが、依然として日本人旅行（特に宿泊旅行）が占める割合は高くなっています。

図表 35 | 日本国内の旅行消費額の推移（兆円）



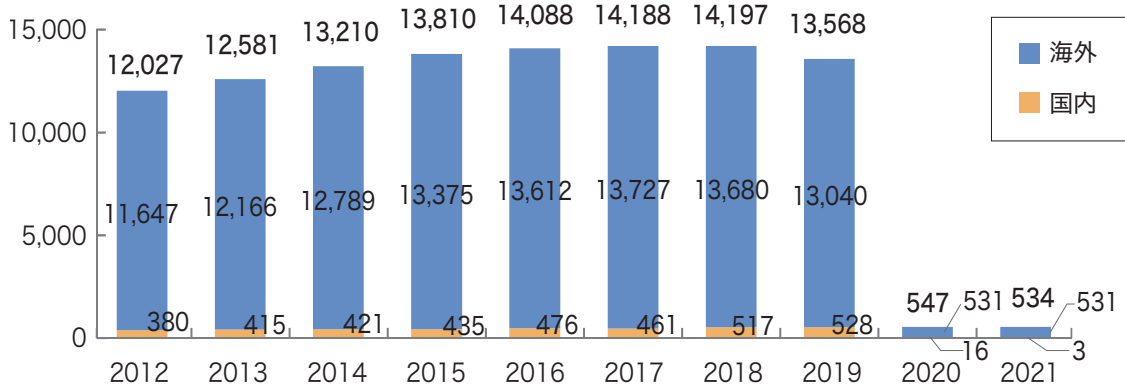
注記) *1：令和2年（2020年）の「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4-6月期、7-9月期、10-12月期の調査が中止となったため、1-3月期の全国調査の結果を用いた試算値
 *2：令和3年（2021年）の「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1-3月期、4-6月期、7-9月期の調査が中止となったため、10-12月期の全国調査の結果等を用いた試算値
 出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」

③ MICE 動向

国内外における国際会議の開催件数の堅調な推移

国内外における国際会議の開催件数は堅調に推移しています。国内の国際会議の開催件数は平成 24 年（2012 年）から増加傾向にあり、コロナ禍前の令和元年（2019 年）には過去最多でした。複数の民間調査会社によると、世界の国際会議の開催件数はコロナ禍からの回復傾向を示し、今後も増加すると見込まれることなどにより、MICE 市場は拡大していくものと推測されています¹⁶。

図表 36 | 国際会議の開催件数 (件) 【ICCA 基準¹⁷】 ※暦年

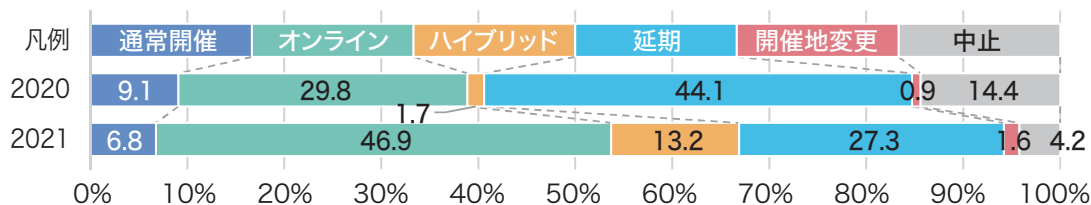


出所) 「ICCA Statistics Report (2012-2021)」

コロナ禍での開催方法の変化

コロナ禍では、国際会議の開催の延期や中止があったものの、一部の国際会議はオンライン開催や現地開催とオンライン開催を併用したハイブリッド開催という新たな方法に切り替えて開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響が軽減するにつれ、通常開催件数は回復していくことが見込まれますが、今後もデジタル技術を活用した開催方法は継続すると考えられます。

図表 37 | 世界の国際会議の開催方法の比較 (%) 【ICCA 基準】 ※暦年



出所) ICCA 「ICCA Statistics Report (2020-2021)」

¹⁶ Technavio.com 「Global Meetings, Incentives, Conventions, and Exhibitions(MICE) Market 2022-2026」、Allied Market Research 「Incentive Travel Market: Opportunities and Forecast 2021-2031」、株式会社グローバルインフォメーション 「MICE 業界市場：イベントタイプ別（会議、インセンティブ、コンベンション、展示会）：世界の機会分析と業界予測 2021 年～2028 年」

¹⁷ ICCA 基準：国際会議協会（ICCA）が作成する国際会議統計の選定基準。下表の基準に基づいて同統計は集計される。

主催者に関する基準	3 か国以上でローテーションがある（2 か国間会議、政府系会議、国連主催の会議は除外）
参加者総数	50 名以上
参加国	—
開催期間	定期的に行われる（1 回のみ開催した会議は除外）

④ 近年の観光トレンド

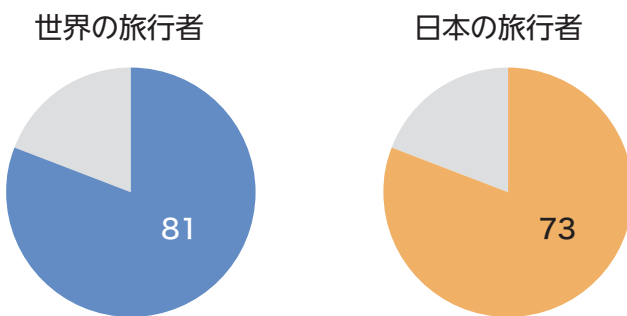
持続可能な観光に対する意識の世界的な高まり

大手宿泊予約サイトによる調査では、日本を含む世界全体の旅行者（世界 32 カ国と地域にわたる 30,000 人以上）のうち約8割、日本の旅行者の約 7 割が「サステナブルな旅は自身にとって重要である」としており、持続可能な観光¹⁸に対する旅行者の意識が高まっていることが明らかになっています。

GSTC¹⁹は、持続可能な観光を推進するための基準として GSTC-D²⁰を開発しています。これを受けて観光庁は、GSTC-D に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」²¹を開発しています。観光庁は、各地方自治体等が JSTS-D を活用することで、地域での多面的な現状把握を可能にし、継続的なモニタリングと証拠資料（エビデンス）に基づいた観光政策や計画の策定、それらに基づく持続可能な観光地マネジメントの促進を図っています。

図表 38 | booking.com 調査

サステナブルな旅が自身にとって重要である割合 (%)



出所) booking.com 「Sustainable Travel Report 2022」

図表 39 | JSTS-D



出所) 観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン」

¹⁸ **持続可能な観光**：訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光。

¹⁹ **GSTC**：Global Sustainable Tourism Council の略。世界的な旅行及び観光分野における観光産業の専門家や、政府機関のための持続可能な開発の基準を定め、管理する国際非営利団体。

²⁰ **GSTC-D**：GSTC Destination Criteria の略。国連で観光地が最低限遵守すべき項目として位置づけられた持続可能な観光地経営のための指標。

²¹ **JSTS-D**：Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations の略。JSTS-D は、「持続可能なマネジメント」、「社会経済のサステナビリティ」、「文化的サステナビリティ」、「環境のサステナビリティ」の 4 分野 174 項目からなる持続可能な観光地マネジメントを行うための支援ツール。観光政策や計画の策定に資するガイドラインとして活用する自己分析ツールの機能、地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組むためのコミュニケーションツールの機能、観光地域としてのブランド化・国際競争力の向上のためのプロモーションツールの機能を持つ。

アドベンチャートラベル／ツーリズム²²

アドベンチャートラベル／ツーリズム（以下、ATという）は、欧米豪圏で発達した体験型観光の一つであり、Adventure Travel Trade Associationによると、「アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行」と定義され、旅行を通して自己変革や成長の実現を目的とする特徴があります。コロナ禍を契機とした自然・アクティビティに対する需要の高まりや、旅行者の長期滞在が望めることなどからも注目されており、国や北海道も推進しています。札幌市では、令和5年（2023年）にアドベンチャートラベル・ワールドサミット（Adventure Travel World Summit）²³が現地開催され、国内におけるATの認知度向上や普及が期待されます。

自然災害の増加・感染症の流行への対応

WMO（世界気象機関）は、昭和45年（1970年）から令和元年（2019年）までの50年間で、暴風雨や洪水、干ばつといった世界の気象災害の数が5倍に増加したと発表しています。

日本でも毎年災害が発生しており、北海道によると、平成30年（2018年）に発生した北海道胆振東部地震では、観光消費の総影響額が356億円になると推計されています。そのため、札幌市においても、観光地としてのレジリエンス（自己回復力・強靱性）の強化に向けた取組を進め、自然災害に対して適切に備えていくことが必要です。

また、令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、観光業は観光客数の減少などの大きな影響を受けました。今後も感染症によるリスクはなくなると考えられるため、コロナ禍での取組を振り返り、次の感染症危機に備えることが重要です。

コロナ禍を契機とした旅行スタイルやニーズの変化

コロナ禍を経て、日本人の国内旅行は、旅行需要の分散化やマイクロツーリズムの拡大、出張・業務旅行の減少などの変化が見られます。今後は、これらの旅行スタイルやニーズの変化への対応が求められます。

図表 40 | 旅行スタイルやニーズの変化

変化項目	具体的な変化
旅行需要の分散化	都市圏・主要観光地の回避、自然景観への志向
マイクロツーリズム ²⁴ への志向	遠方ではなく近隣への宿泊観光や日帰り観光の増加
出張・業務旅行の減少	宿泊旅行から日帰り旅行へのシフト、オンライン化

出所) 国土交通省「令和4年版観光白書」より整理

²² アドベンチャートラベル／ツーリズム：自然の中でのアクティビティや異文化体験を通じて自分の内面が変わっていくような新たな旅のスタイル。

²³ アドベンチャートラベル・ワールドサミット：世界中のアドベンチャートラベル関係者が一堂に会する国際商談会。旅行会社、メディア、アウトドアメーカー、観光局・観光協会、ガイドなど、約60カ国から約800名の関係者が参加し、通常4日間にわたり、AT体験、商談会、セミナー等を開催。

²⁴ マイクロツーリズム：自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光をすること。

⑤ 国の動向

新たな「観光立国推進基本計画」の策定

政府は、観光を成長戦略の柱、地方創生への切り札と位置付けており、平成 28 年（2016 年）3 月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では、質の高い観光交流を加速させるべく、2030 年に訪日外国人旅行者数を 6,000 万人、訪日外国人旅行消費額を 15 兆円とするなど、高い目標を掲げて施策を推進しています。また、コロナ禍を経た令和 5 年（2023 年）3 月には、新たな「観光立国推進基本計画」を策定しました。この基本計画においては、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の 3 つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の 3 つの戦略に取り組むこととしています。

図表 41 | 国の計画における数値目標

指標	2019 年実績	観光立国推進基本計画 (2023 年 3 月)	明日の日本を支える 観光ビジョン (2016 年 3 月)
		2025 年目標	2030 年目標
持続可能な観光地域づくりに 取り組む地域数	12 地域 ※ 2022 年実績	100 地域	—
訪日外国人旅行者 一人当たり旅行消費額	15.9 万円 / 人	20 万円 / 人	—
訪日外国人旅行消費額	4.8 兆円	早期達成目標 5 兆円	15 兆円
訪日外国人旅行者 一人当たり地方部宿泊数	1.4 泊	2 泊	—
地方部での外国人 延べ宿泊数	3,921 万人泊	—	1 億 3,000 万人泊
訪日外国人旅行者数	3,188 万人	2019 年水準越え	6,000 万人
外国人リピーター数	1,420 万人	—	3,600 万人
日本人の海外旅行者数	2,008 万人	2019 年水準超え	—
国際会議の開催件数割合	アジア 2 位 アジア主要国シェア 約 30%	アジア最大の開催国 アジア主要国シェア 3 割以上	—
日本人の地方部延べ宿泊者数	3.0 億人泊	3.2 億人泊	—
国内旅行消費額	21.9 兆円	22 兆円 早期達成目標 20 兆円	22 兆円

出所) 2019 年実績地方部での外国人延べ宿泊数：観光庁「令和 2 年度版観光白書」
 2019 年実績外国人リピーター数：観光庁「令和元年訪日外国人消費動向調査【トピックス分析】」
 上記以外：観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」、観光庁「観光立国推進基本計画」

観光業の構造転換

観光業の構造的な課題には、人材不足やデジタル化の遅れ、労働生産性が他の産業と比べて低いことなどがああります。国は、これらの課題を解決するため、観光産業の高付加価値化やDX²⁵を推進するとともに、観光産業従事者の待遇改善に取り組んでいます。

全国各地の観光地経営の推進

観光庁は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを支援するため、観光地域の舵取り役としての観光地域づくり法人（以下、DMO²⁶という）の登録制度を創設しています。札幌では地域 DMO は設立されていませんが、道内では地域 DMO が 12 か所、政令指定都市では、横浜市・京都市・神戸市・北九州市の 4 か所で地域 DMO が設立されています。日本各地における DMO による観光地経営の推進により、地域における観光施策の計画・実行・検証といった取組が一体的に推進されることから、都市間競争は激化するものと考えられます。

図表 42 | DMO 数（令和4年（2022年）10月28日現在）

DMO 登録区分	マーケティング・マネジメント対象区域	総数
広域連携 DMO	地方ブロックレベルの区域	10 (-)
地域連携 DMO	複数の地方公共団体に跨る区域	122 (19)
地域 DMO	原則として、基礎自治体である単独市町村の区域	188 (46)

注記) *：括弧内は総数の内候補 DMO 数
出所) 観光庁

25 DX（デジタルトランスフォーメーション）：デジタル技術及びデータの活用等を通じて製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、組織の文化・風土や業務を変革することで競走上の優位性を確立すること。

26 DMO：Destination Management / Marketing Organization の略称。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

■日本での観光地域づくり法人登録要件

1	観光地域づくり法人を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
2	データ等の継続的な収集、戦略の策定、KPI の設定・PDCA サイクルの確立
3	関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーションの実施
4	法人格の取得、責任者の明確化、データ収集・分析等の専門人材の確保
5	安定的な運営資金の確保

上記の要件すべてにすでに該当している場合：登録 DMO

上記の要件の 1、4 に該当し、今後すべてに該当する予定の場合：候補 DMO

⑥ 札幌市の動向

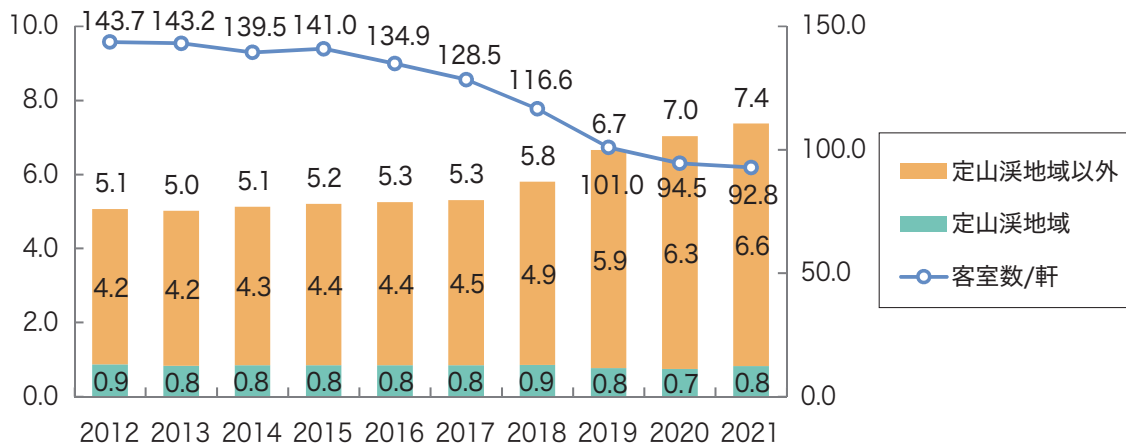
都市のリニューアル

札幌市では、昭和 47 年（1972 年）の札幌オリンピックの開催を契機として、公共施設が集中的に整備されたほか、都心を中心に民間ビルなどが多く建設されました。それから 50 年以上経過した現在では、当時形成した都市基盤の老朽化が進み更新時期を迎えており、都心での民間による再開発の動きが活発化しています。

そうした再開発や札幌での観光客数の増加などを背景に、札幌市内の宿泊施設の客室数は増加しています。今まで市内にはなかった外資系ホテルブランドのハイグレードホテルの進出が予定されており、富裕層や、ハイグレードホテルが抱える顧客企業などのニーズに応える宿泊環境が整備されます。

また、一軒あたりの客室数は減少傾向であり、小規模な宿泊施設が増加しています。これには、個人旅行が進んでいることが影響していると考えられます。

図表 43 | 市内宿泊施設の定員数 (万人、左軸) と 1 軒あたりの客室数 (室/軒、右軸) の推移



出所) 札幌市「札幌の観光」

持続可能性に配慮したまちづくりの推進

札幌市は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて様々な取組を進めており、平成 30 年（2018 年）に内閣府から「SDGs 未来都市」として選定されました。

また、札幌市は、持続可能性に配慮したまちづくりを進めており、令和 2 年（2020 年）に日本の都市では初の LEED²⁷ for Cities and Communities で最高ランクのプラチナ認証を取得しました。

²⁷ LEED：米国グリーンビルディング協会が開発・運用する、国際的にも認知されている環境性能評価システム。「建築設計・建設 (BD+C)」、「インテリア設計・建設 (ID+C)」、「既存ビル運用・メンテナンス (O+M)」、「エリア開発 (ND)」、「住宅 (HOMES)」、「シティとコミュニティ (Cities and Communities)」の 6 つの認証システムのカテゴリを設定。

道外からのアクセス利便性の向上

道外・海外との移動手段は航空機に大きく依存していますが、新千歳空港は地方空港の中でも利便性が高く、また道内空港一括民営化により各空港との連携が強化されています。（現在は国際線の便数減少や、豪州への直行便がなくなるなど、コロナ禍の影響が残っており、早期の回復が望まれます。）

また、令和12年度（2030年度）末に予定されている北海道新幹線の札幌延伸・開業により、札幌・東京間は約5時間で移動できるようになり、在来線利用時と比較して移動時間が大幅に短縮されます。

さらに、札幌市では丘珠空港の滑走路の延長や空港運用時間の拡大などの機能強化を国に要望しており、これが実現すれば、更なる利便性の向上が期待されます。

図表 44 | 新千歳空港の国内路線

青森	茨城	信州まつもと	広島
いわて花巻	成田	富士山静岡	出雲縁結び
仙台	羽田	中部	徳島阿波おどり
秋田	新潟	伊丹関西	松山
山形	富山きときと	神戸	福岡
福島	小松	岡山	那覇

出所) 新千歳空港 HP

図表 45 | 新千歳空港の国際路線

国	就航都市数
中国	9
香港	1
韓国	3
台湾	2
シンガポール	1
マレーシア	1
タイ	1
フィリピン	1
フィンランド	1
ロシア	1

出所) 新千歳空港 HP
(令和5年(2023年)1月時点)

図表 46 | 丘珠空港の就航先

函館	たんちよう釧路	女満別	利尻
奥尻	三沢	信州まつもと	富士山静岡

出所) 札幌市 HP

図表 47 | 北海道新幹線延伸前後での札幌駅と起点駅との所要時間の比較

起点	現在*	延伸後
東京	約457分	約301分
新函館北斗	約210分	約73分
倶知安	約117分	約26分

注記) *：乗換の待ち時間を考慮しない時間

出所) 現在：ジョルダン（令和4年（2022年）12月23日9:00出発の時刻から算出）

延伸後：国土交通省「整備新幹線未着工区間の「収支採算性及び投資効果の確認」に関するとりまとめ」、国土交通省「収支採算性及び投資効果に関する詳細資料」（第9回整備新幹線小委員会配布資料）

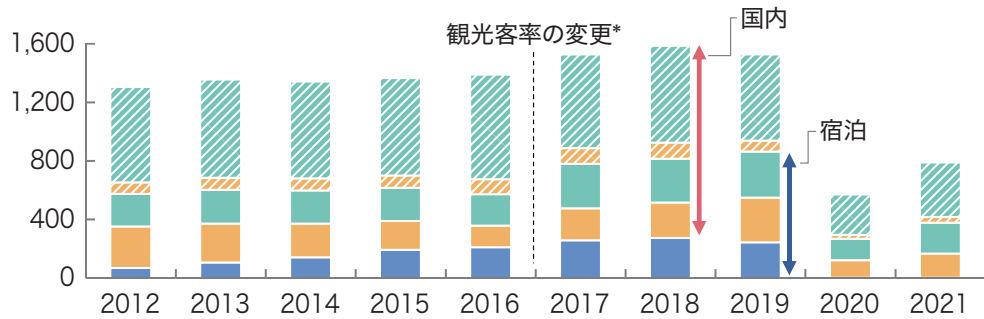
Ⅱ. 札幌観光の統計・評価の分析

① 観光入込客数

総数

市内の観光入込客数は、国内客が約 8 割を占める構造となっています。平成 24 年度（2012 年度）以降、道外客数と海外客数が年々増加し、平成 29 年度（2017 年度）に年間 1,500 万人に達しました。平成 30 年度（2018 年度）以降は、日帰り客数が減少している一方、宿泊客数が増加していることから、滞在期間が長期化していると考えられます。

図表 48 | 札幌市内の観光入込客数の年次推移 (万人)

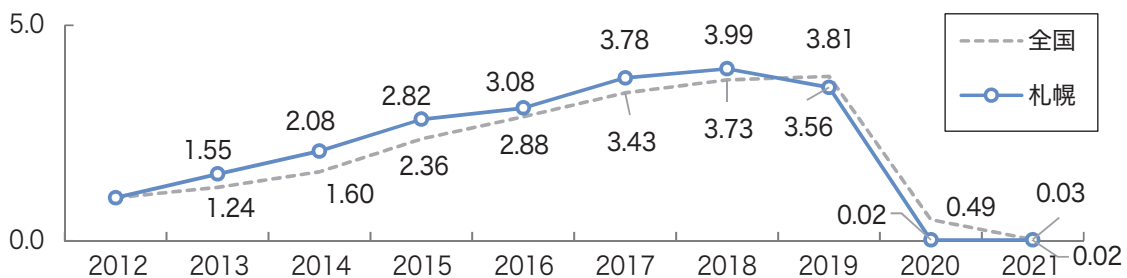


	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
全合計	1,304	1,356	1,342	1,365	1,388	1,527	1,585	1,526	571	789
日帰り合計	731	754	743	750	816	748	771	662	303	412
道内客 (日帰り)	652	671	661	666	713	641	660	589	275	372
道外客 (日帰り)	79	83	83	85	103	108	111	73	28	40
宿泊合計	573	602	598	615	57	779	814	864	267	377
道内客 (宿泊)	222	231	227	226	216	303	299	317	147	212
道外客 (宿泊)	283	265	230	197	147	219	243	305	119	164
海外客	68	105	142	192	209	257	272	242	1	1

注記) *：観光客率の変更については、資料編 A II ①の脚注を参照
出所) 札幌市「札幌の観光」、札幌市資料

海外客数は、コロナ禍前まで順調に拡大してきましたが、平成 29 年度（2017 年度）以降は、伸びが鈍化していました。

図表 49 | 平成 24 年（2012 年）を基準とした場合の海外客数の各年の増減率の全国との比較 (倍) *

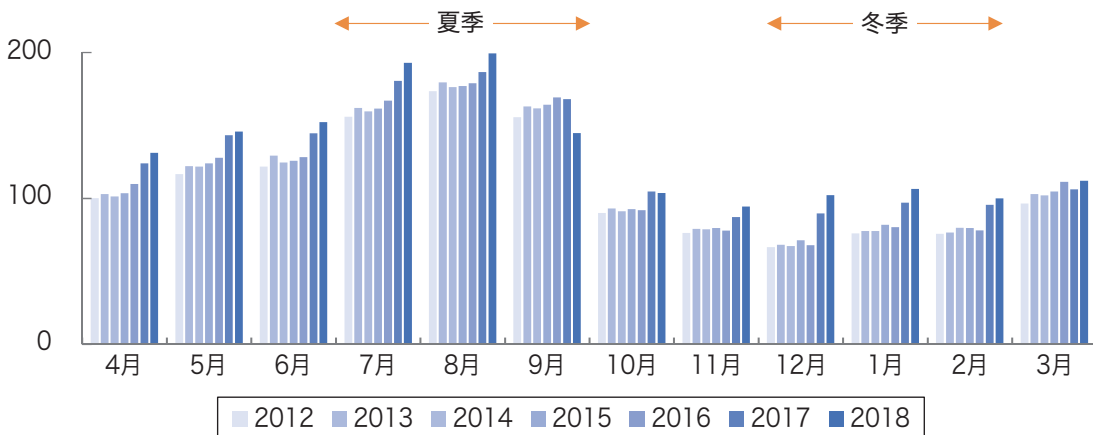


注記) *：札幌市は年度、全国平均は暦年で統計をとっているため、3 か月のずれが生じていることに留意
出所) 札幌市「札幌の観光」、JNTO「日本の観光統計データ」

月別

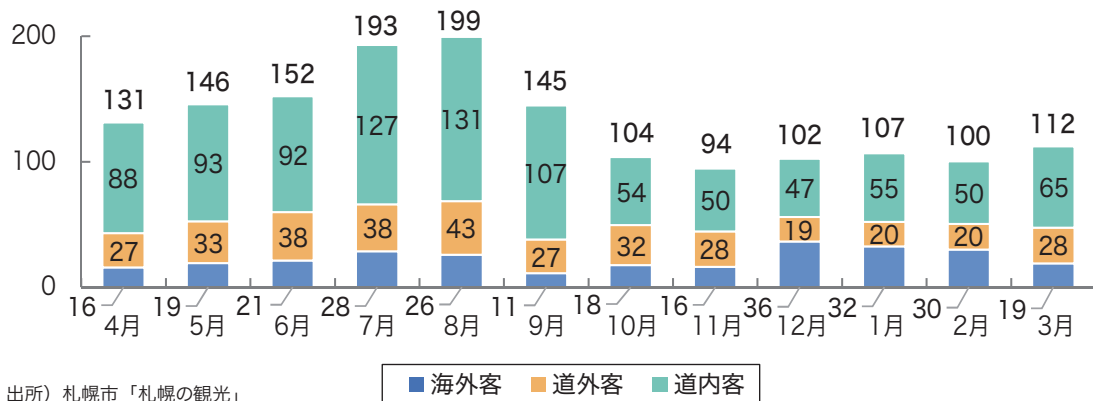
来札観光入込客数の月別推移では、夏季（7月～9月）が多く、冬季（12月～2月）が少なくなっており、観光需要の繁閑差が見られます。これは、夏季に道内客及び日帰り客が多く来札していることが原因と考えられます。

図表 50 | 来札観光入込客数の月次推移 (万人)



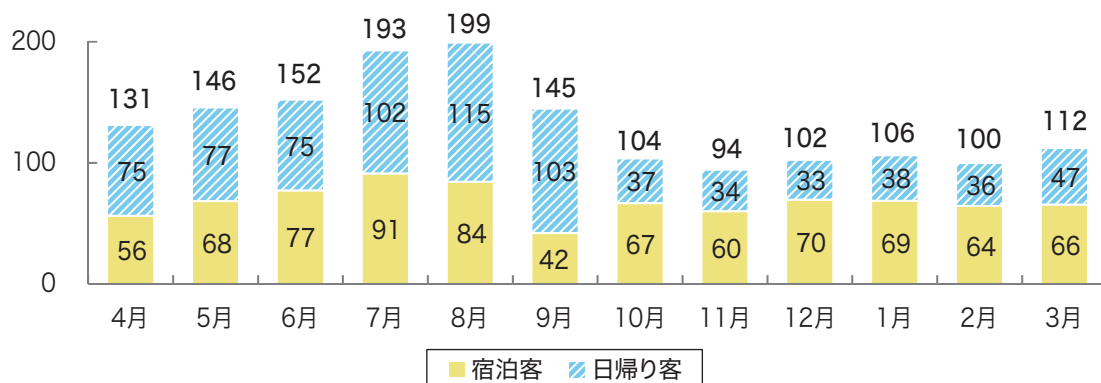
出所) 札幌市「札幌の観光」

図表 51 | 平成 30 年度 (2018 年度) の月別の観光入込客数 (万人)



出所) 札幌市「札幌の観光」

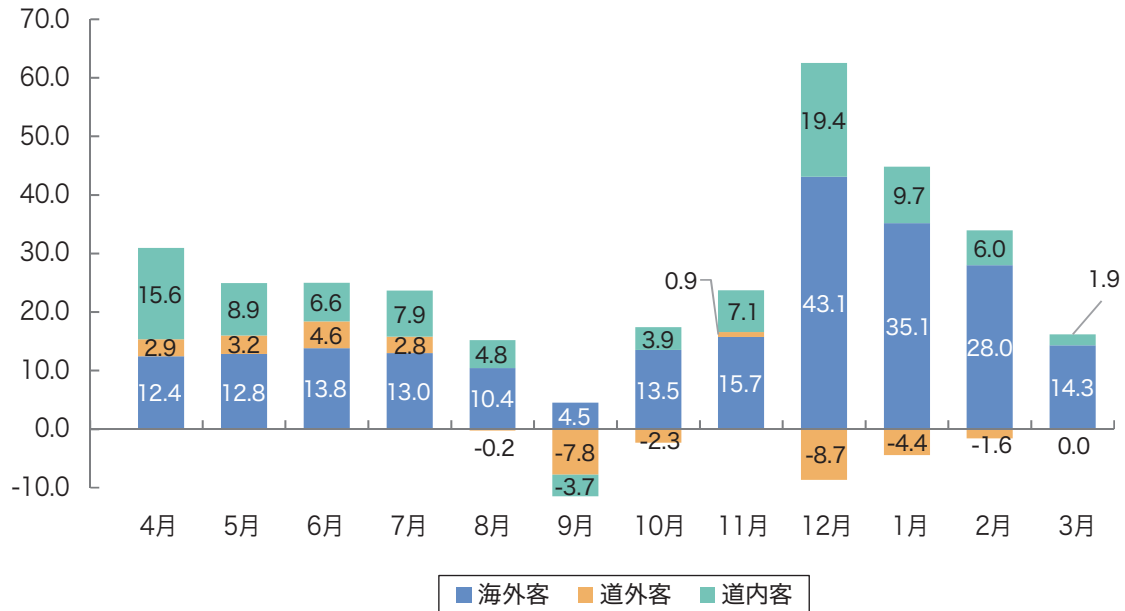
図表 52 | 平成 30 年度 (2018 年度) の月別の日帰り客と宿泊客数 (万人)



出所) 札幌市「札幌の観光」

月別の観光入込客数の増減率の内訳を確認すると、冬季に海外客が多く来札していることで、繁閑差の緩和傾向につながっていると考えられます。

図表 53 | 月別の観光入込客数の増減率の内訳 (%) *

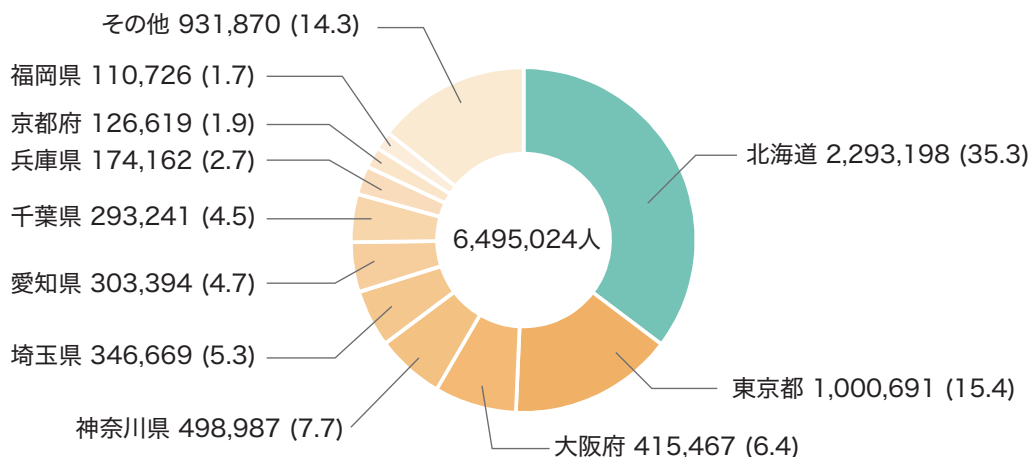


注記 * : 平成 24 年度 (2012 年度) に対する平成 30 年度 (2018 年度) の増減率
出所) 札幌市「札幌の観光」を加工

発地別宿泊客数

日本人宿泊客数は、道内が一番多く、続いて三大都市圏が多くなっています。北海道新幹線の札幌延伸・開業によって、東北や北関東からのアクセスの利便性が向上することで、多様な地域からの集客が期待されます。

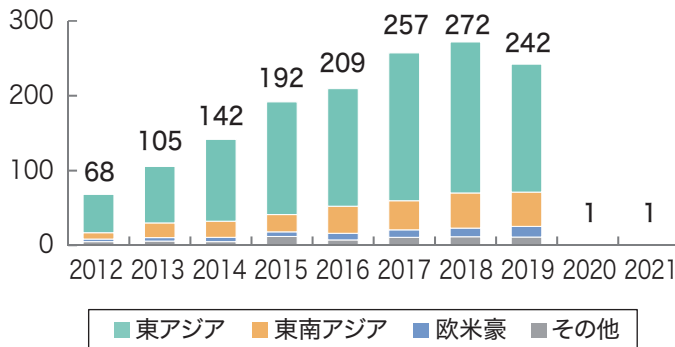
図表 54 | 国内の発地別延べ市内宿泊者数 (人) と割合 (%) *



注記 * : 令和 3 年 (2021 年) の値
出所) 観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

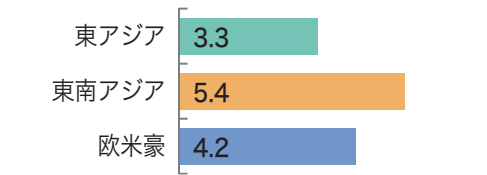
外国人宿泊客数は、コロナ禍前まで増加しており、欧米豪からの宿泊客数も令和元年度（2019年度）には、平成24年度（2012年度）と比較して増加しています。一方で、全国と比較すると東南アジアの割合が高く、欧米豪の割合が低くなっています。外国人宿泊客の地域がアジアに偏っているリスクを分散するには、欧米豪は今後誘致を強化すべき市場と言えます。

図表 55 | 発地別外国人宿泊客数の推移 (万人)



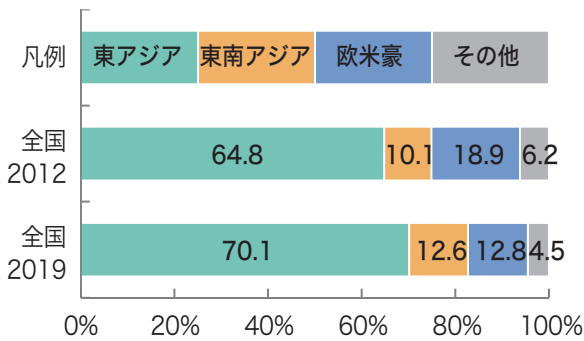
出所) 札幌市「札幌の観光」

図表 56 | 平成24年度(2012年度)を基準とした令和元年度(2019年度)の発地別外国人宿泊客数の増減率の比較 (倍)



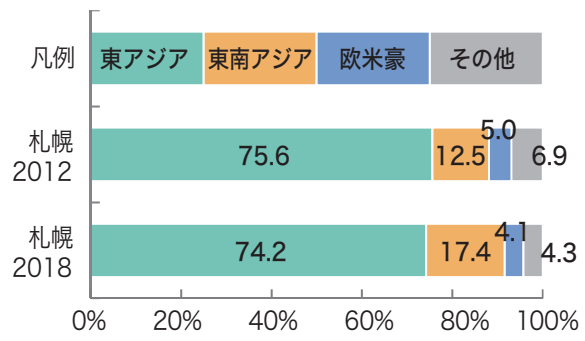
出所) 札幌市「札幌の観光」

図表 57 | 全国の外国人宿泊客数の発地別割合 (%)



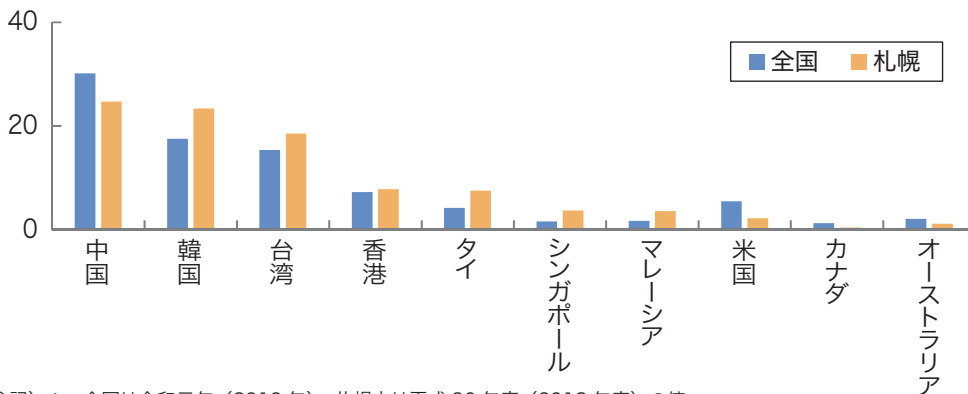
出所) JNTO「日本の観光統計データ」

図表 58 | 札幌の外国人宿泊客数の発地別割合 (%)



出所) 札幌市「札幌の観光」

図表 59 | 全国と札幌市の外国人延べ宿泊客数の国別割合 (%) の比較 *



注記) *: 全国は令和元年(2019年)、札幌市は平成30年度(2018年度)の値
出所) 札幌市「札幌の観光」、JNTO「日本の観光統計データ」※暦年

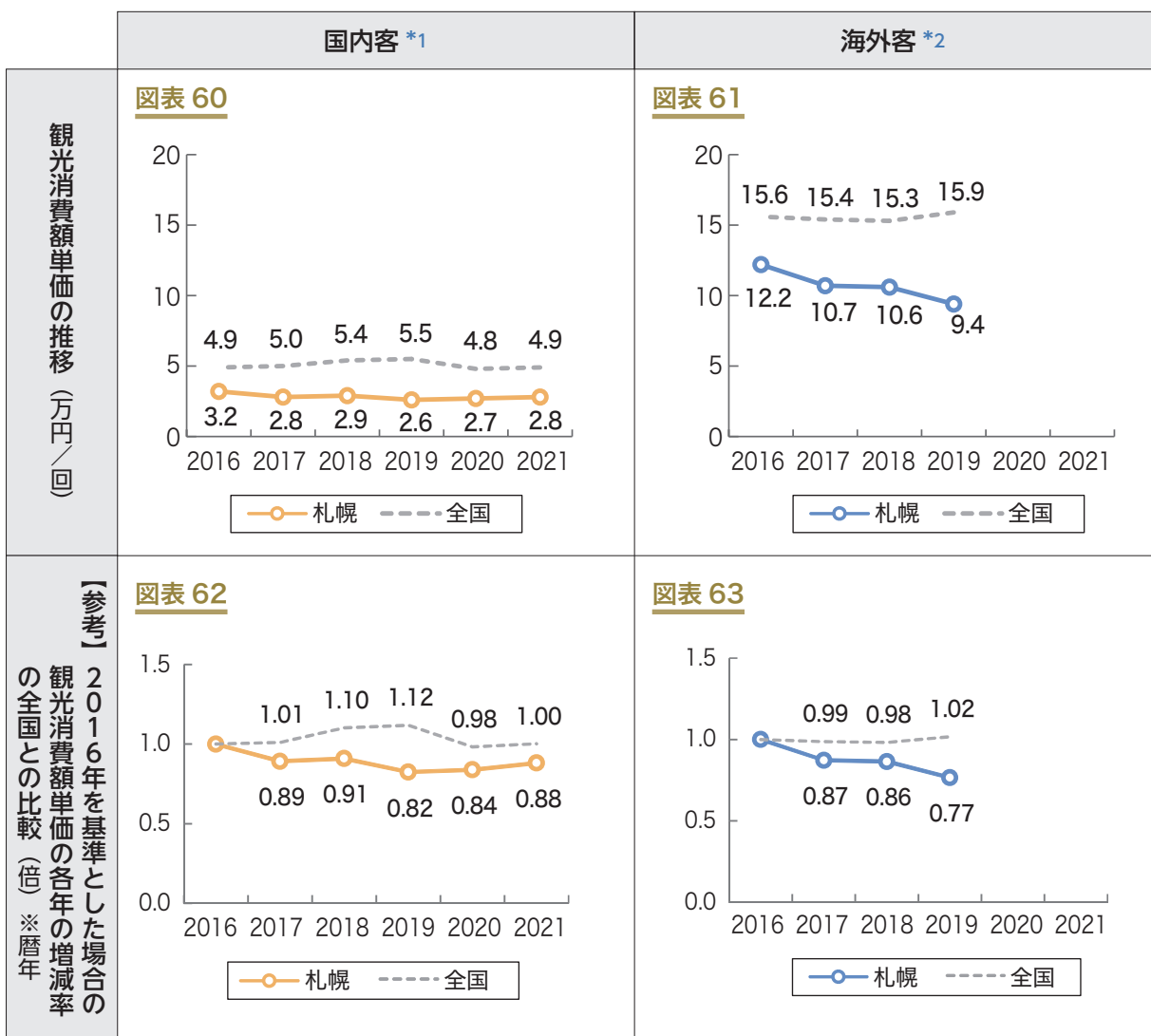
② 観光消費額単価

札幌の観光消費額単価と国内の旅行程全てを含む全国の観光消費額単価を単純比較できませんが、国内客の観光消費額単価は、全国は横ばいで、札幌は平成 29 年（2017 年）以降 3 万円を切っています。

海外客の観光消費額単価は、全国は横ばいで、札幌の観光消費額単価は平成 28 年（2016 年）から一貫して下落しています。

今後は、観光客の消費動向を的確に把握し、ニーズに合った高付加価値の商品・サービスの提供や、滞在日数の長期化を図るなど、観光消費額単価を向上させる取組が求められます。

●全国・札幌の宿泊客観光消費額単価の推移（万円 / 回）

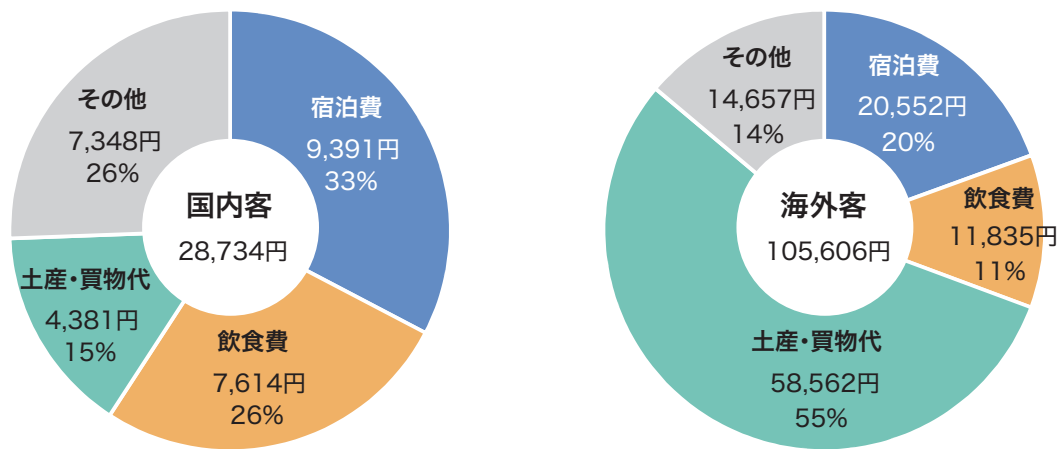


注記) *1 : 全国は日本人宿泊旅行の値、札幌は道外宿泊客の値

*2 : 令和 2 年度（2020 年度）以降、全国の値は新型コロナウイルス感染症の影響により試算値であるため除外、札幌の値は、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし

出所) 札幌市資料、観光庁「旅行・観光消費動向調査」※暦年、JNTO「日本の観光統計データ」※暦年

図表 64 | 宿泊客観光消費額単価の内訳比較 (2018年度)

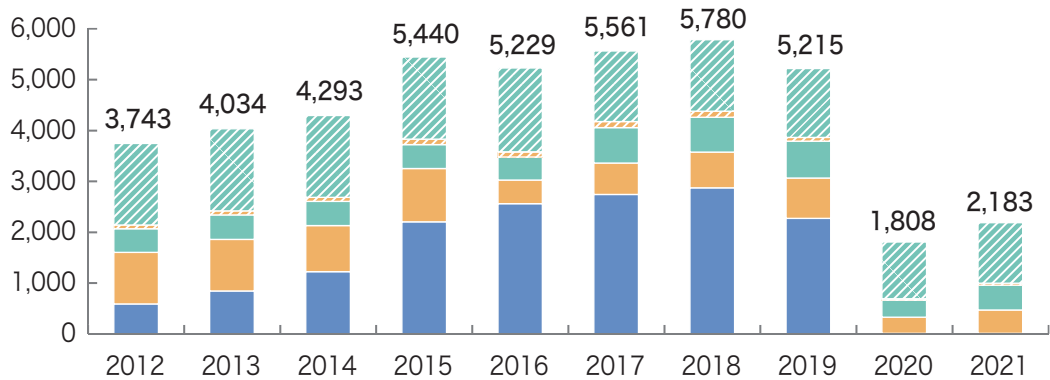


注記) 国内客は道外宿泊客の値
出所) 札幌市資料

③ 総観光消費額

総観光消費額は、平成 24 年度（2012 年度）以降増加しており、平成 30 年度（2018 年度）に約 5,780 億円となりました。海外客の総観光消費額は、1 人あたりの観光消費額単価が高いため、平成 30 年度（2018 年度）には、札幌市内の総観光消費額の約 5 割を占めるようになりました。

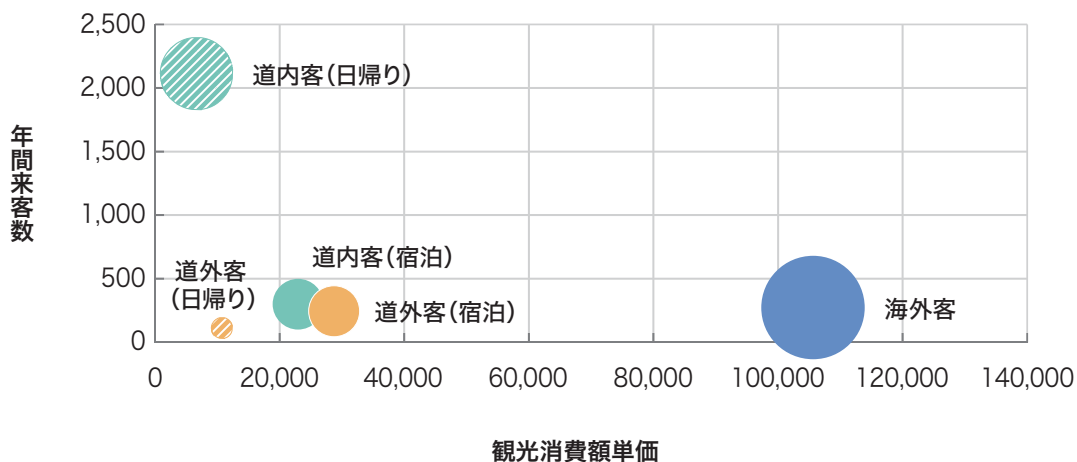
図表 65 | 総観光消費額の推移（億円）



全合計	3,743	4,034	4,293	5,440	5,229	5,561	5,780	5,215	1,808	2,183
日帰り合計	1,677	1,695	1,691	1,718	1,754	1,507	1,523	1,425	1,144	1,230
道内客（日帰り）	1,601	1,616	1,608	1,612	1,648	1,390	1,404	1,352	1,116	1,188
道外客（日帰り）	76	79	83	106	106	116	119	73	29	41
宿泊合計	2,066	2,338	2,603	3,722	3,475	4,055	4,257	3,790	663	953
道内客（宿泊）	464	482	473	473	450	695	686	726	337	485
道外客（宿泊）	1,014	1,014	910	1,046	466	617	699	795	316	458
海外客	588	842	1,220	2,203	2,559	2,743	2,871	2,269	10	10

注記 *：道内客（日帰り）には市民客等を含む
出所）札幌市資料

図表 66 | 総観光消費額（年間来客数（万人）と観光消費額単価（円）の相対関係図*



注記 *：平成 30 年度（2018 年度）の値、●の大きさは、総観光消費額（百万円）
出所）札幌市資料より加工

④ MICE

国内での国際会議の開催件数の推移

国際会議の開催件数の統計には、選定基準が複数あります。本プランでは JNTO による選定基準と、ICCA による選定基準で集計された国際会議の件数を分析します。

◆ JNTO の選定基準で集計された国際会議

JNTO の選定基準は、日本国内で開催された国際会議に対する選定基準です。対象となる国際会議は、日本を含む 3 か国以上が参加するもので、また、定期開催ではないものが含まれます。

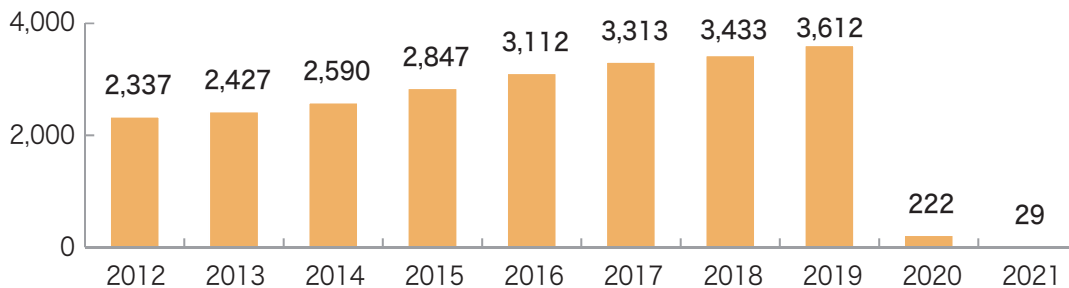
図表 67 | JNTO の国際会議の選定基準

主催者に関する基準	国際機関・国際団体（各国支部を含む）または国家機関・国内団体（民間企業以外）
参加者総数	50 名以上
参加国	日本を含む 3 か国以上
開催期間	1 日以上

出所) JNTO 「2021 年国際会議統計」

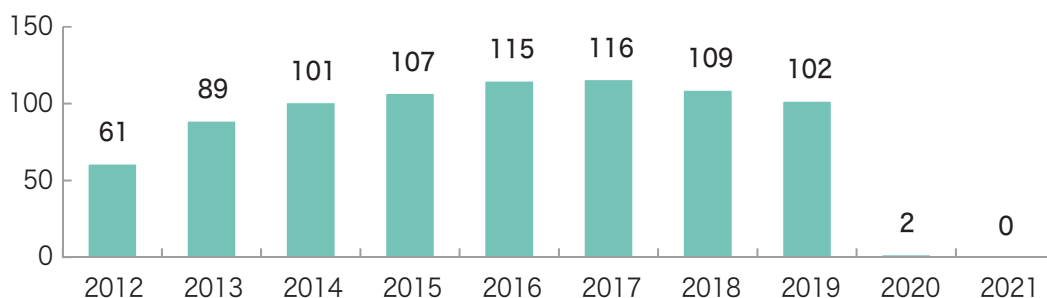
JNTO 基準の国際会議は、国内の開催件数が増加しているなか、国内での誘致競争の激化により、札幌市の開催件数は平成 30 年（2018 年）以降減少傾向です。

図表 68 | 国内の国際会議の開催件数（件）【JNTO 基準】※暦年



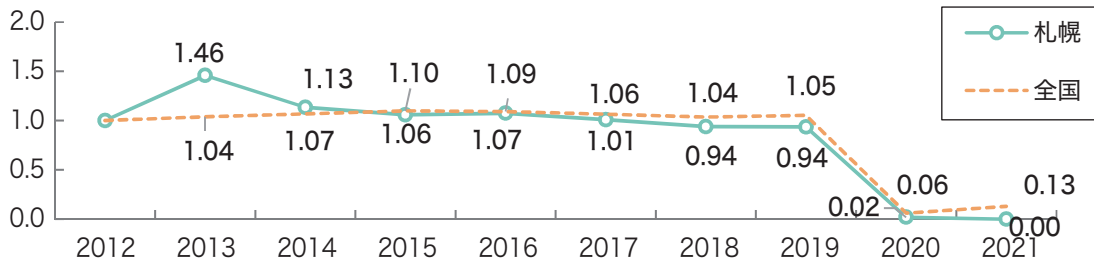
出所) JNTO 「2021 年国際会議統計」

図表 69 | 札幌市の国際会議の開催件数（件）【JNTO 基準】※暦年



出所) JNTO 「2021 年国際会議統計」

図表 70 | 【参考】国際会議の開催件数の前年度比の全国との比較(倍)【JNTO 基準】※暦年



出所) JNTO 「2021 年国際会議統計」

◆ ICCA の選定基準で集計された国際会議

ICCA の選定基準は、世界で開催された国際会議に対する選定基準です。対象となる国際会議は、3 か国以上でローテーションされて開催されるもので、また、定期的で開催されているもののみが含まれます。

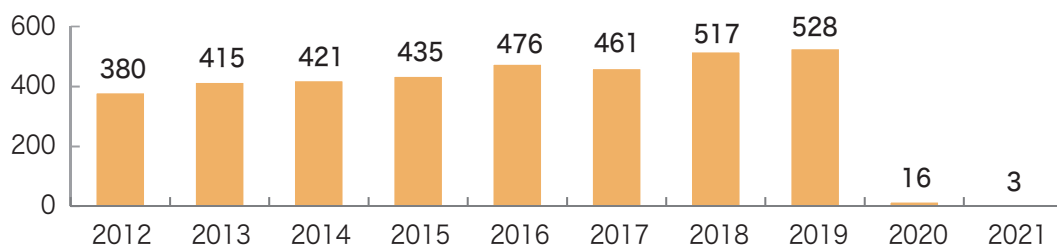
図表 71 | ICCA の国際会議の選定基準

主催者に関する基準	3 か国以上でローテーションがある (2 か国間会議、政府系会議、国連主催の会議は除外)
参加者総数	50 名以上
参加国	—
開催期間	定期的で開催 (1 回のみ開催した会議は除外)

出所) JNTO 「2021 年国際会議統計」

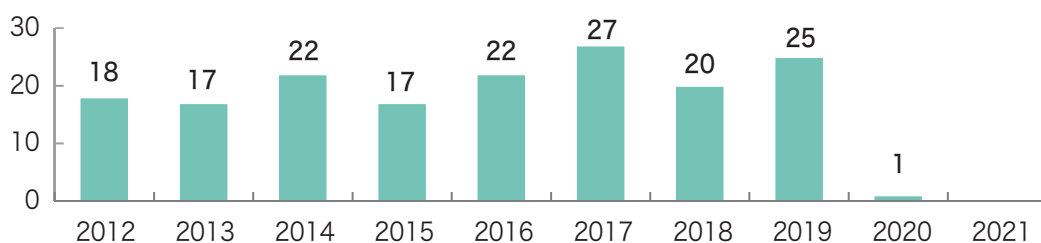
ICCA 基準の国際会議は、国内の開催件数が年々増加しています。札幌市の開催件数は年度によりばらつきがありますが、やや増加傾向です。

図表 72 | 国内の国際会議の開催件数(件)【ICCA 基準】※暦年



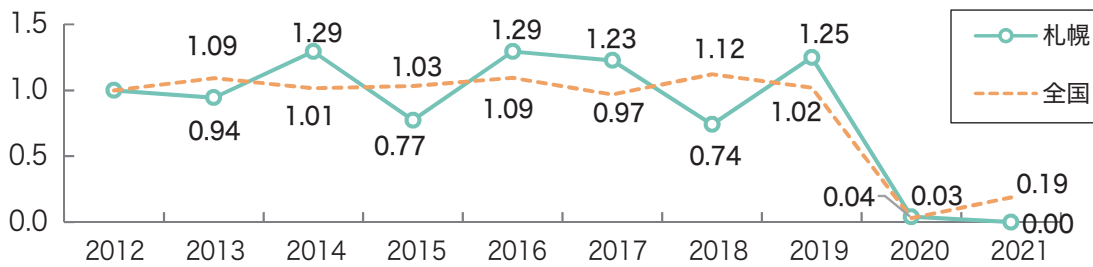
出所) ICCA 「ICCA Statistics Report (2012-2021)」

図表 73 | 札幌市の国際会議の開催件数(件)【ICCA 基準】※暦年



出所) ICCA 「ICCA Statistics Report (2012-2021)」

図表 74 | 【参考】国際会議の開催件数の前年度比の全国との比較(倍)【ICCA 基準】※暦年

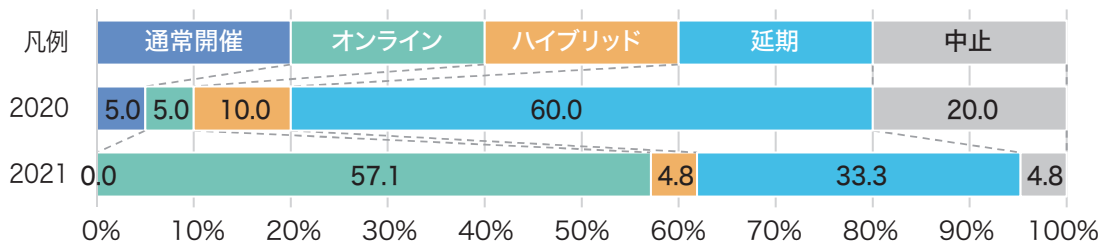


出所) ICCA 「ICCA Statistics Report (2012-2021)」を加工

コロナ禍での開催方法の変化

コロナ禍以降、札幌市での国際会議の開催方法は、世界の傾向と同様、デジタル技術を活用した開催形式が見られるようになりました。今後、通常開催件数は回復していくことが見込まれますが、デジタル技術を活用した開催方法は継続すると考えられます。

図表 75 | 札幌市の国際会議の開催方法の比較(%)【ICCA 基準】※暦年



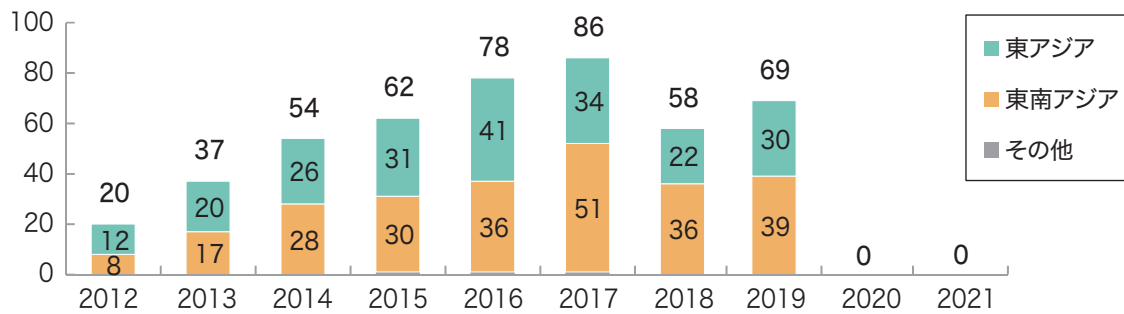
出所) 札幌市「札幌市における国際会議等誘致の現況と取組」

インセンティブ旅行誘致

インセンティブ旅行支援件数²⁸は、平成24年度（2012年度）から増加しています。東南アジアからの誘致が年々増加しており、平成29年度（2017年度）以降、東アジアの支援件数を上回っています。

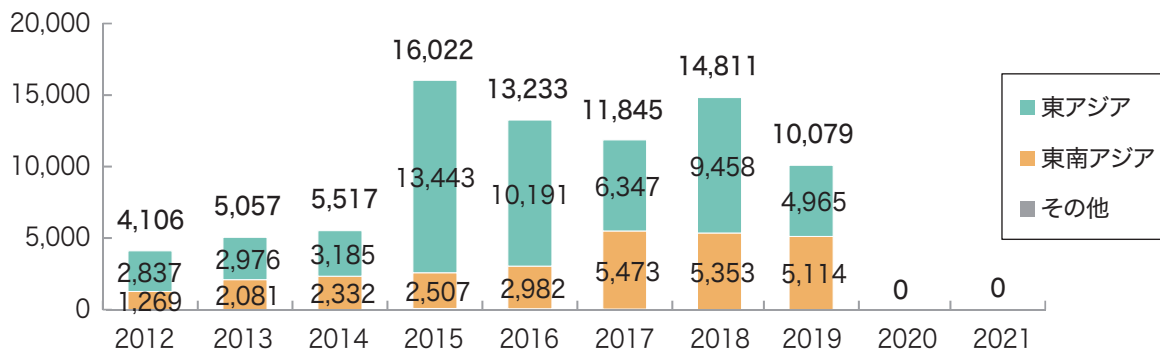
インセンティブ旅行参加人数は、平成27年度（2015年度）以降、1万人の水準を維持しています。東アジアは件数で比較すると東南アジアよりも少ないですが、参加人数では東南アジアより多く、大規模なインセンティブ旅行であることが特徴となっています。

図表 76 | インセンティブ旅行支援件数(件)*



注記) * : インセンティブ旅行誘致件数 5 件未満は数値ラベルを非表示
出所) 公益財団法人札幌国際プラザ資料

図表 77 | インセンティブ旅行参加人数(人)*



注記) * : インセンティブ旅行参加人数 100 人未満は数値ラベルを非表示
出所) 公益財団法人札幌国際プラザ資料

28 札幌市で行われたインセンティブ旅行総数のうち、公益財団法人札幌国際プラザによる誘致支援件数。

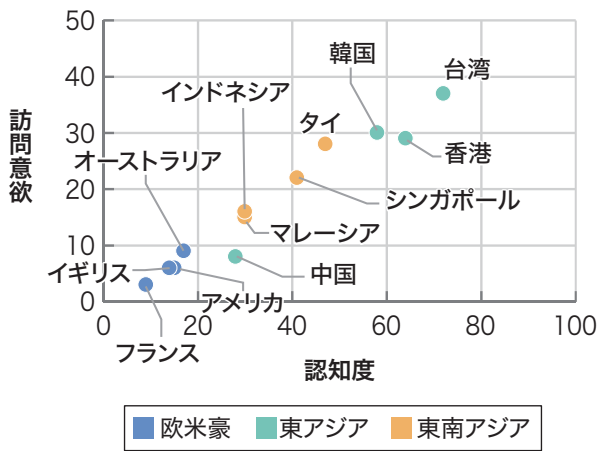
⑤ 認知度と観光意欲度

海外

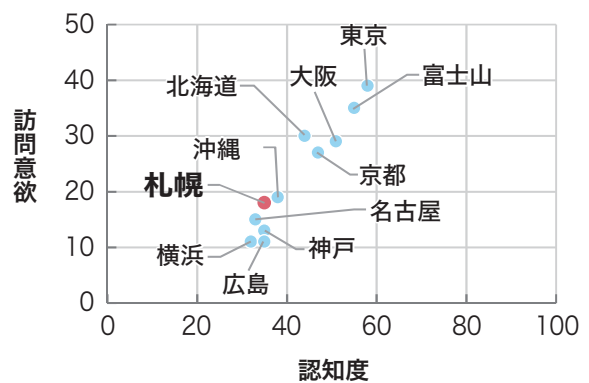
株式会社日本政策投資銀行及び公益財団法人日本交通公社のアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査 2022 年度版によると、札幌市は、中国を除く東アジアでの認知度と訪問意欲が高くなっています。一方で、欧米豪の認知度と訪問意欲が低くなっています。

札幌市は、国内の他の自治体や観光地と比較すると、訪問意欲、認知度が高いとは言えず、これをいかに向上させ、世界的に増加が見込まれる訪日外国人旅行者の需要を取り込んでいけるかが今後の課題です。

図表 78 | 海外での札幌の認知度 (%) と 訪問意欲 (%)



図表 79 | 海外での札幌及び他自治体・観光地の認知度 (%) と 訪問意欲 (%)



出所) 株式会社日本政策投資銀行・公益財団法人日本交通公社
「アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査 2022 年度版」

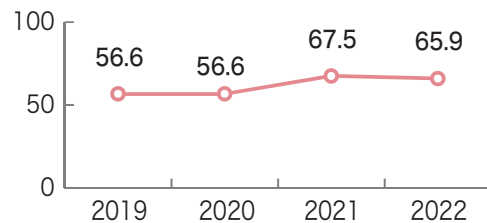
国内

民間調査会社による地域ブランド調査によると、札幌市は国内から「観光や旅行に行きたい」自治体として、高い評価を得ています。この評価を維持・向上させていくためにも、観光客が実際に札幌市を訪れた際、観光客の期待に応え、観光客の期待を超えるような満足度の高い観光を提供していくことが重要です。

図表 80 | 日本人の市町村別観光意欲度ランキング (点)

順位	市区町村	観光意欲度	前年差
1	札幌市	65.9	▲ 1.6
2	函館市	62.0	▲ 3.5
3	京都市	60.0	▲ 3.0
4	小樽市	57.8	▲ 0.4
5	横浜市	55.7	2.1

図表 81 | 札幌市の観光意欲度の推移 (点)

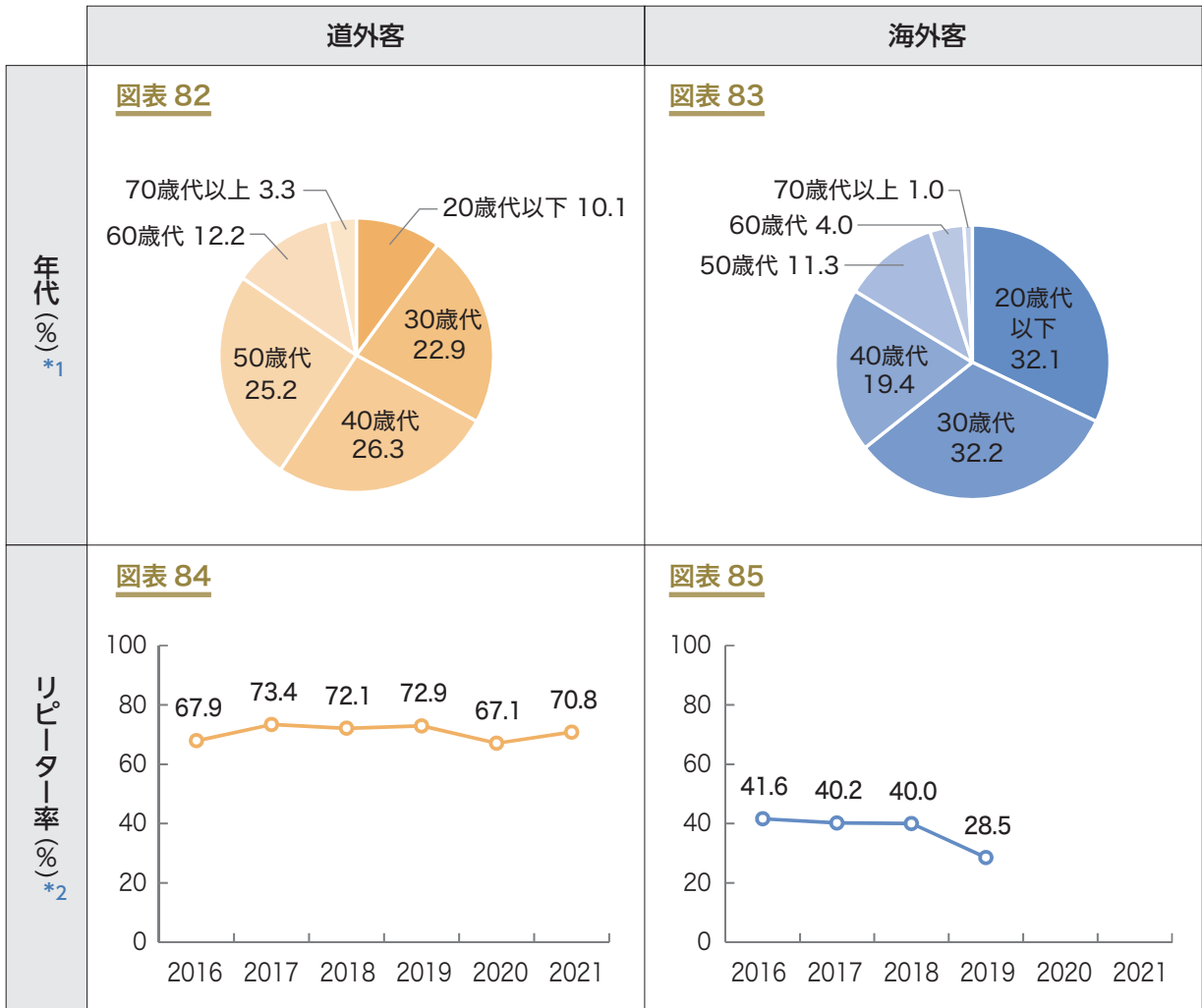


出所) 株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査 2022」

⑥ 観光客の属性

年代は、道外客は40～50歳代が多く、海外客は、30歳代以下の若い世代が多いです。

リピーター率は、道外客は7割前後で横ばいです。一方で、海外客は海外客の総数が増加する中、リピーター数の増加以上に札幌へ初めて訪問する海外客数が増加しているため、減少傾向です。



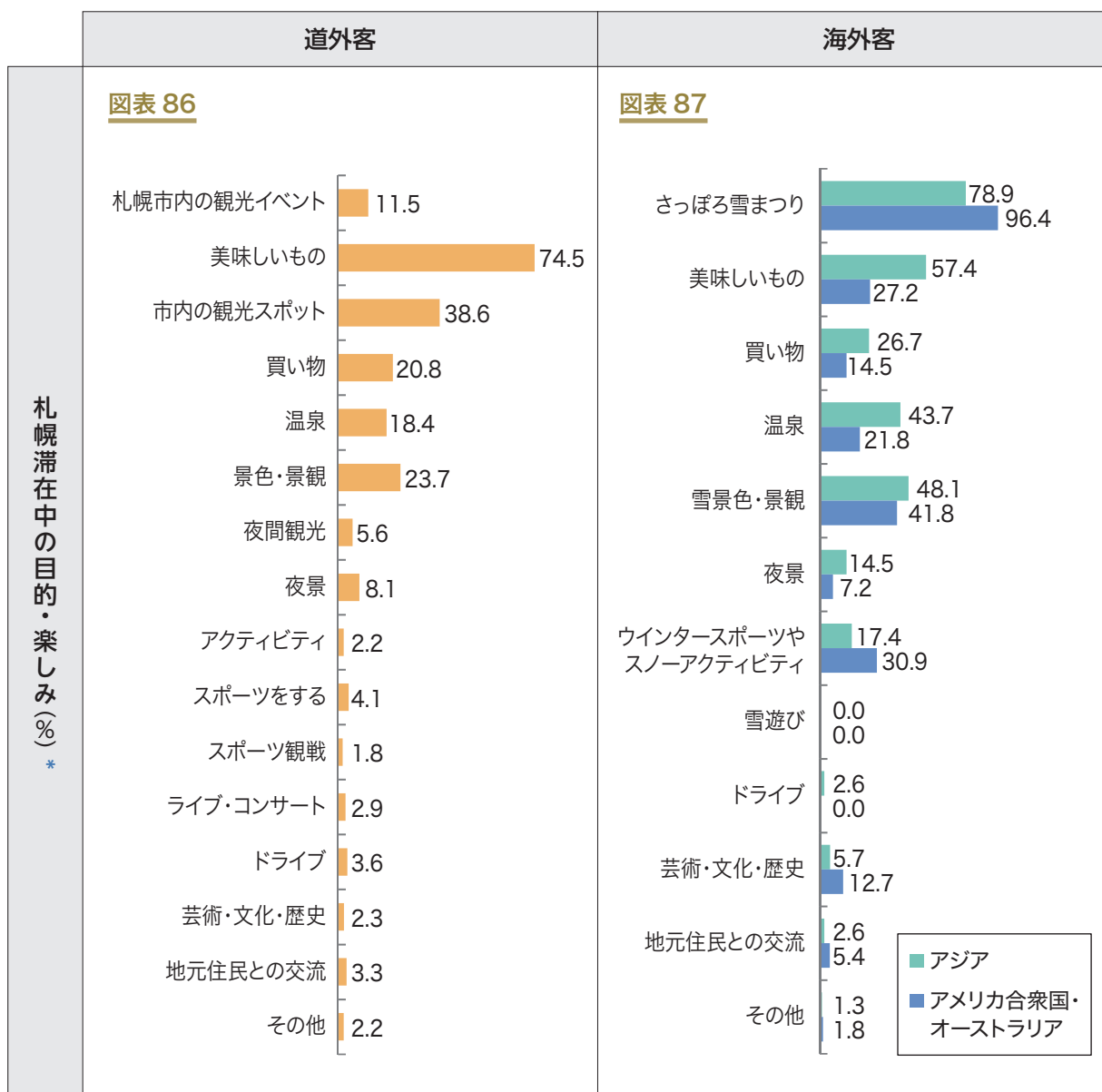
注記 *1：新型コロナウイルス感染症の影響のない平成30年度（2018年度）の年代別割合を記載

*2：来札者の内、来札回数が2回以上の来札者の割合（海外客は令和2年度（2020年度）以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし）

出所）札幌市「来札観光客満足度調査・外国人個人観光客動態調査報告書」

札幌滞在中の目的・楽しみでは、道外客は「美味しいもの」、海外客は「雪まつり」の人気の高いです。道外客と海外客を比較すると、道外客は海外客より「美味しいもの」や「ドライブ」と回答した割合が高く、海外客は道外客より景色やアクティビティと回答した割合が高くなっています。

また、地域別で見ると、アジアからの海外客は「温泉」と回答した割合も高くなっており、アメリカ合衆国・オーストラリアからの海外客は「ウインタースポーツやアクティビティ」と回答した割合も高くなっています。

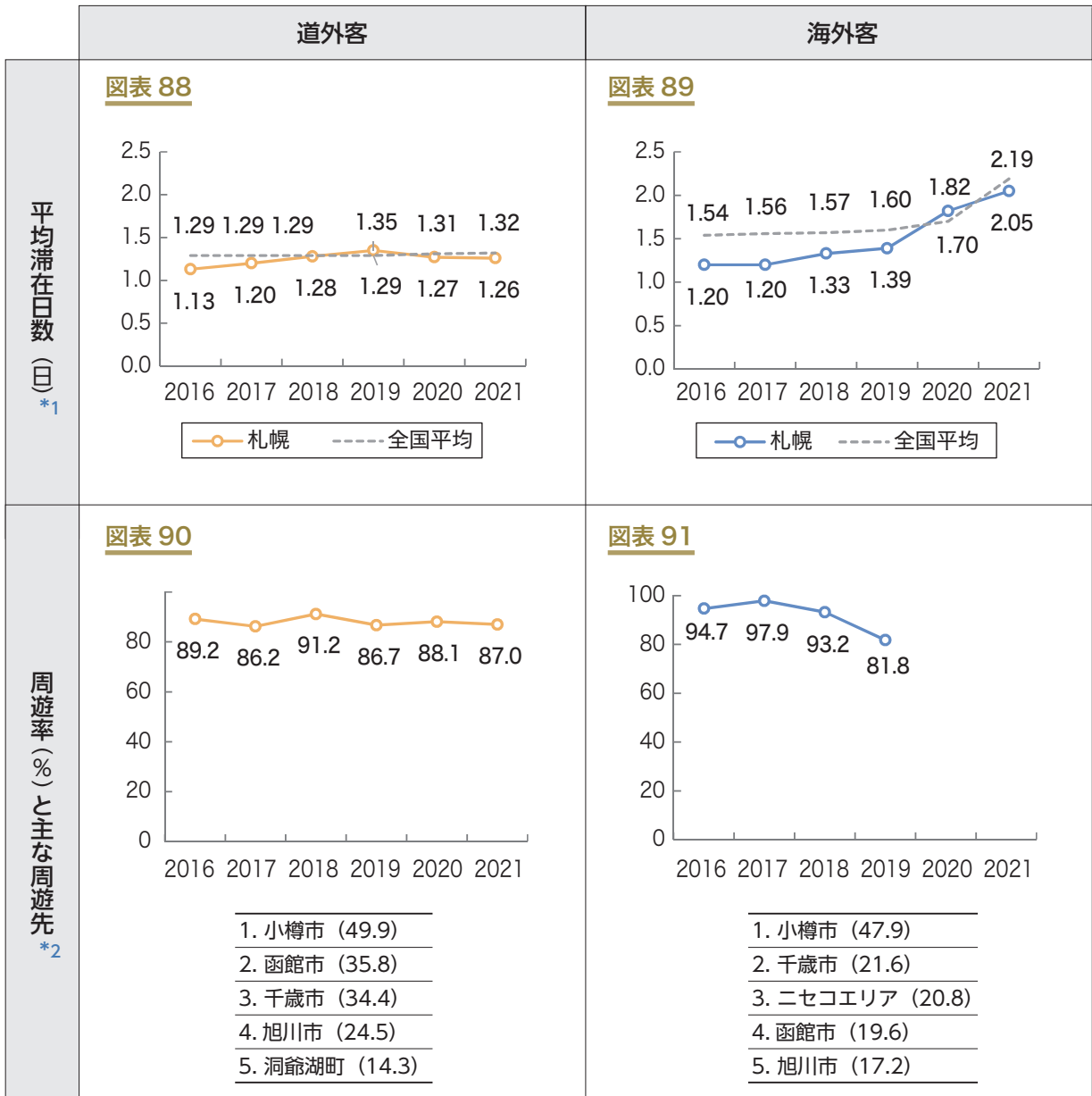


注記) * : 道外客は令和3年度(2021年度)、海外客は令和元年度(2019年度)の値(海外客は令和2年度(2020年度)以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし)
出所) 札幌市「来札幌観光客満足度調査・外国人個人観光客動態調査報告書」

⑦ 観光客の動態

平均滞在日数は、道外客は全国平均と同程度で推移し、海外客は、コロナ禍前は全国平均を下回る水準でした。（令和元年度（2019年度）以降は、コロナ禍の影響で変動が大きいため参考値。）

また、周遊率は、道外客・海外客ともに8割以上の観光客が、札幌を観光する際に道内の他の自治体も訪問しています。特に海外客はニセコエリアに多く訪れています。札幌は道内観光のゲートウェイであり、道内各地の魅力が集まるショーケースでもあり、今後も道内連携により、周遊しやすい環境づくりや、一体的な魅力向上に取り組んでいくことが重要です。



注記) *1 : 延べ宿泊客数を実宿泊客数で除して算出

*2 : 道外客は令和3年度(2021年度)、海外客は令和元年度(2019年度)の値(海外客は令和2年度(2020年度)以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし)

出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」※暦年

札幌市資料、「来札観光客満足度調査」、「外国人個人観光客動態調査」

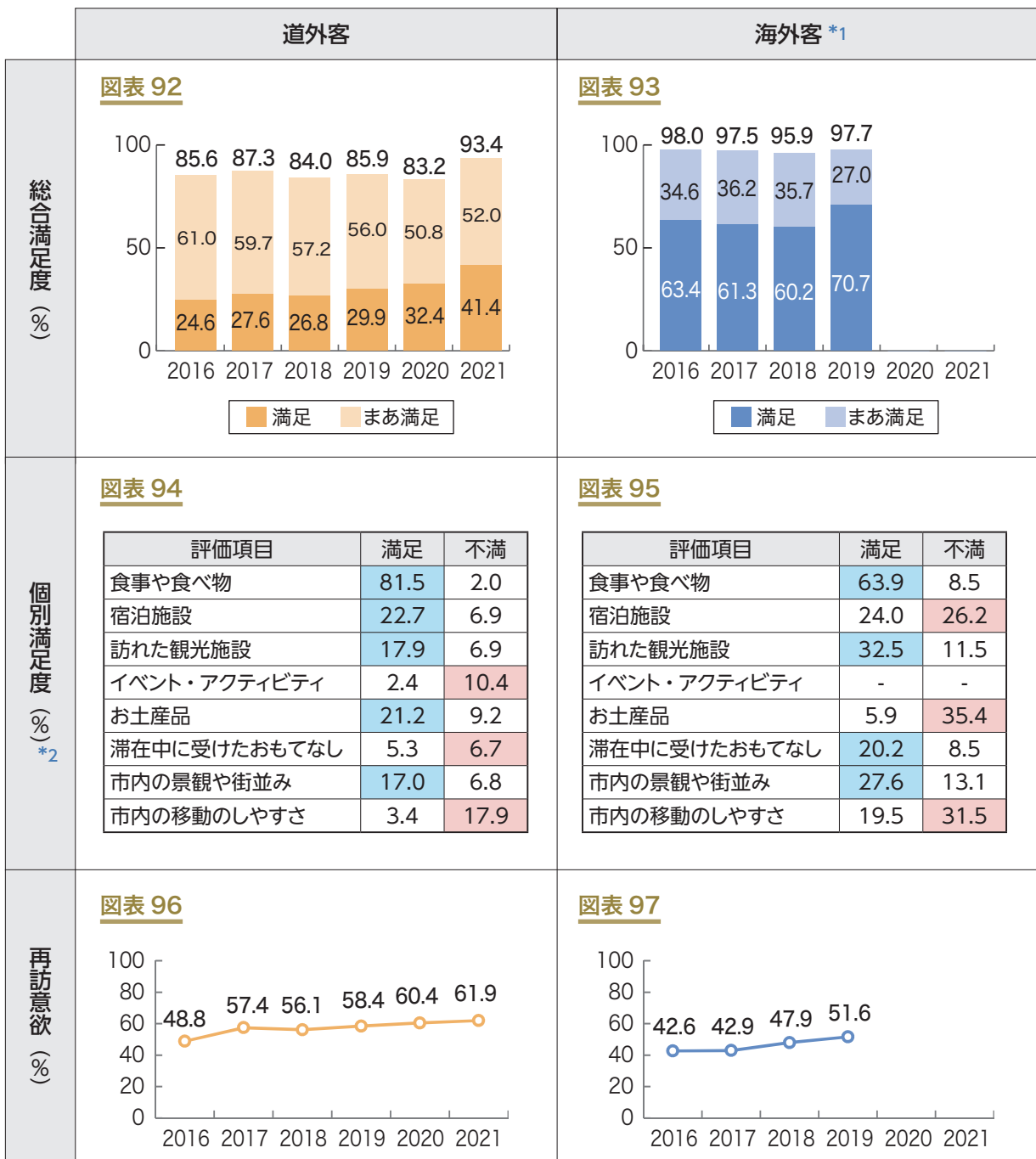
⑧ 観光客の評価

観光客の満足度

総合満足度は、道外客は「満足」と回答した割合は増加傾向にあり、令和3年（2021年）には4割を超えました。海外客は、道外客よりも高く、6割から7割で横ばいとなっています。

個別満足度は、道外客・海外客ともに「市内の移動のしやすさ」に対する満足の割合が不満より低くなっています。道外客は「イベント・アクティビティ」や「滞在中に受けたおもてなし」、海外客は「お土産品」や「宿泊施設」に対する不満の割合が満足よりも高くなっています。

再訪意欲は、道外客・海外客ともに年々上昇しています。



注記 *1：海外客は令和2年度（2020年度）以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし

*2：道外客は令和3年度（2021年度）、海外客は令和元年度（2019年度）の値

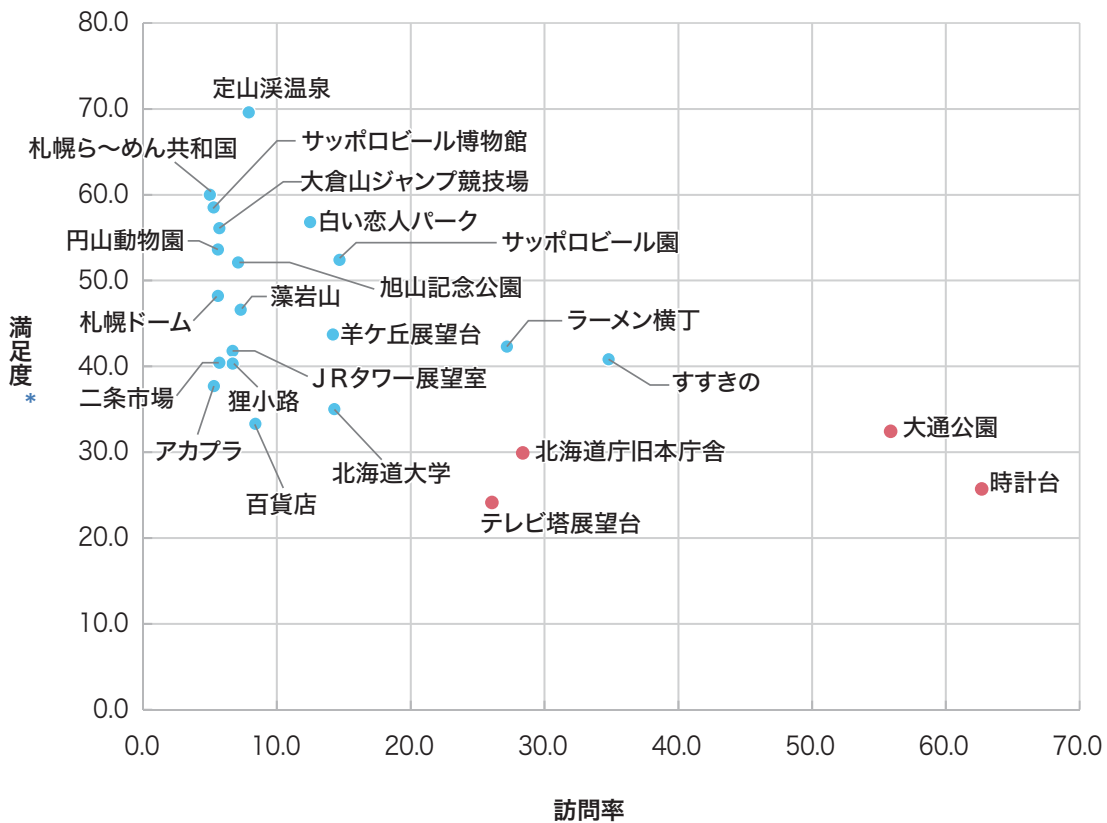
出所 札幌市「平成28年度（2016年度）～令和3年度（2021年度）来札観光客満足度調査」、「平成28年度（2016年度）～令和元年度（2019年度）外国人個人観光客動態調査」

観光施設・スポット

札幌市には、観光客に訴求する多種多様な観光スポットがあり、なかでも大通公園や時計台、北海道庁旧本庁舎などは全国的に知られ、多くの観光客が訪れる定番の観光スポットです。

一方で、道外客に対するアンケートでは、訪問率が高い定番の観光スポットは満足度が低く、訪問率が低い観光スポットほど満足度が高い傾向がみられます。そのため、定番の観光スポットを見てもらうだけでなく、その場所でしか体験できないプログラムを提供するなど、訪問率が高く満足度の低い観光スポットの付加価値を高める取組が必要です。

図表 98 | 観光施設・スポットの訪問率(％、横軸)と満足度(％、縦軸)



注記 * : 「令和3年度来札観光客満足度調査」で訪問した観光スポットを「満足」と回答した人の割合
出所) 札幌市「令和3年度来札観光客満足度調査」

第1章
第2次札幌市観光まちづくり
プランの策定に当たって

第2章
将来ビジョン

第3章
現状分析

第4章
施策展開

第5章
成果指標

第6章
推進体制の
強化に向けて

資料編

イベント

札幌市は、さっぽろ雪まつりをはじめとする100万人以上の集客力があるイベントが5つあり、四季を通じて観光客や市民が楽しめる観光資源となっています。

一方で、道外客に対するアンケートでは、さっぽろ雪まつり以外のイベントの認知度に課題がみられます。イベントに関心を持ちそうな観光客に各種イベントの魅力を効果的に伝えるため、マーケティングやプロモーションの工夫が必要です。また、前述のとおり、満足よりも不満と回答した割合が高いことから、その要因を分析し、イベントの質を高めていくことも重要です。

図表 99 | 主なイベント

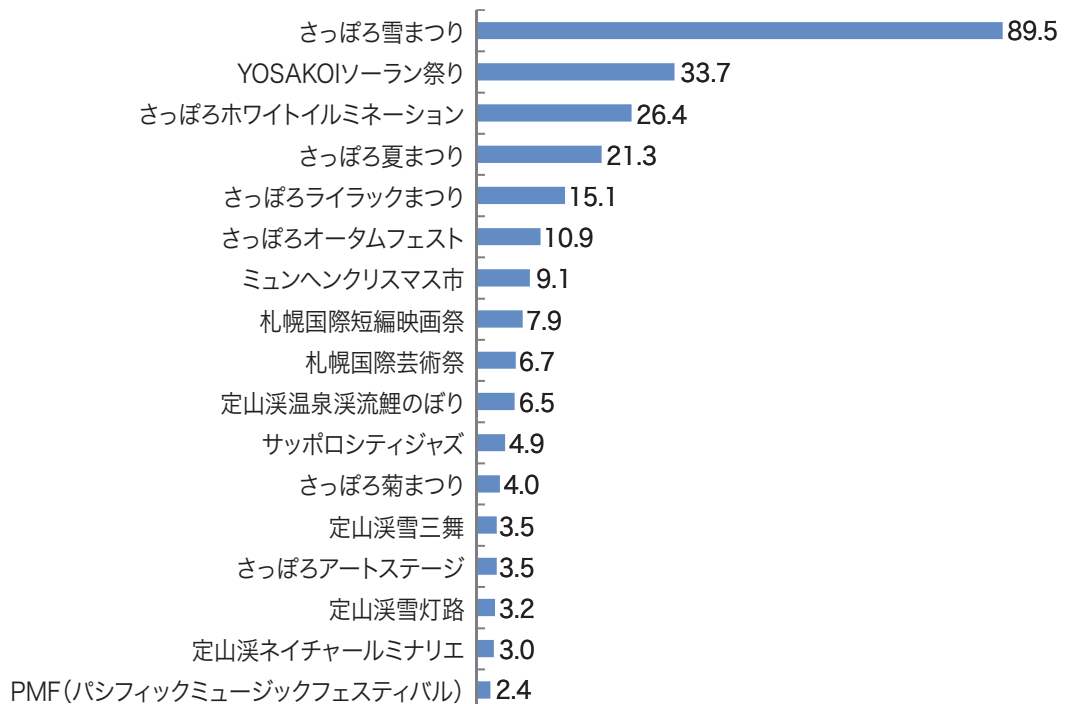
イベント名					
時期	6月	7～8月	9月	11～12月	2月
動員数*	211万人	200万人	235万人	151万人	202万人

注記) *：動員数は令和元年度（2019年度）の値

出所) YOSAKOIソーラン祭り：YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

さっぽろ夏祭り、さっぽろオータムフェスト、ミュンヘン・クリスマス市、さっぽろ雪まつり：札幌観光協会「ようこそ SAPPORO」札幌市「札幌の観光」、札幌市資料

図表 100 | イベントの認知度 (%)



出所) 札幌市「令和3年度来札幌観光客満足度調査」

二次交通

札幌市は、約 200 万人の市民が日々の生活で利用する JR・地下鉄・バス・路面電車・タクシーなどの公共交通機関が整備されています。

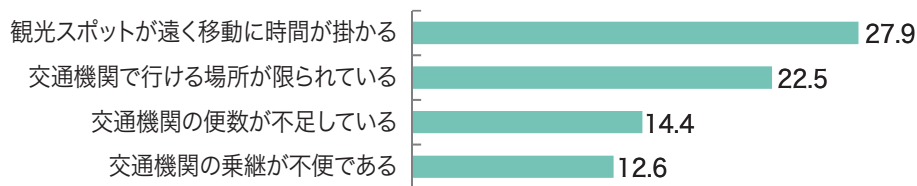
一方で、道外客へのアンケートでは、郊外の観光スポットへのアクセスや交通機関の利便性に課題がみられ、観光客にとっては二次交通に対する不満が高くなっています。観光客のニーズや動態を把握し、周遊しやすい交通環境の整備が必要です。

図表 101 | 市内の公共交通機関

区分	JR	地下鉄	バス	路面電車	タクシー
平均乗車人員/日	159,405	446,091	204,090	17,329	78,660
平均本数/日	870	994	10,808	—	— (5,327 台)*

注記 *：令和 2 年度（2020 年度）中のタクシー登録台数（法人タクシー・個人タクシーの合計）の値
出所）札幌市「都市交通データブック 2021」

図表 102 | 二次交通に対する不満の原因 (%)



出所）札幌市「令和 2 年度来札観光客満足度調査」

外国人観光客受入環境

札幌市は、観光需要回復に向けて効果的・効率的に外国人観光客の受入環境を整備するため、整備状況を調査しました。調査結果から、看板や窓口スタッフの多言語対応、災害発生時対応等に課題が見られ、外国人観光客に市内観光を快適に過ごしてもらうため、受入環境の改善が必要です。

図表 103 | 外国人観光客受入環境整備の優先度

優先度高	<ul style="list-style-type: none">● ベジタリアン料理提供● 特定アレルギー物質・食品内容表記● 記名誘導看板多言語対応（英以外）● ハラール対応
優先度中	<ul style="list-style-type: none">● 窓口・スタッフの多言語対応● 災害発生時対応● 記名誘導看板多言語対応（英）● モバイル決済

出所）札幌市「外国人観光客受入環境整備状況調査業務概要版」より整理

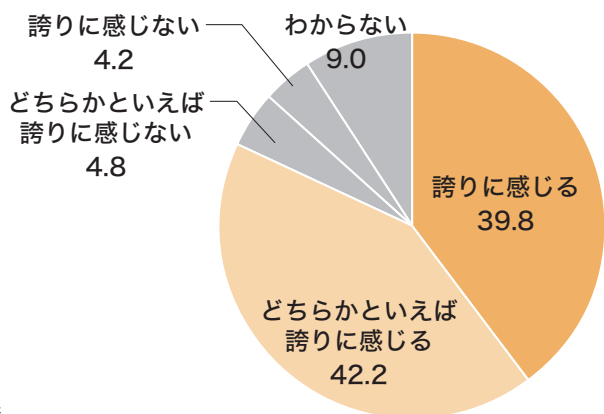
⑨ 市民の観光に関する意識調査

市民の観光に対する意識を調査するためにアンケート調査を実施しました（市内在住の満18歳以上の500名を対象としたインターネット調査）。

約8割の市民が、札幌が観光地として評価されていることに誇りを感じています。一方で、札幌に多くの観光客が訪れることで自身にとって良い影響があると感じている市民は約6割にとどまり、市民の観光に対する理解や満足度が十分だとは言えません。

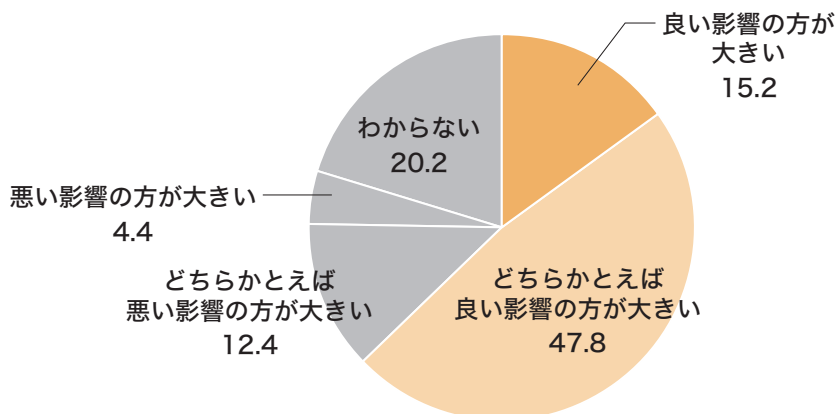
札幌市が観光に関する各種施策を推進するに当たっては、市民の観光に関する理解や満足度の向上が不可欠であり、近年では、オーバーツーリズムによる観光の負の影響が問題となる地域も多いことから、継続的に市民の観光に対する受け止め方を把握し、観光施策に反映していくことが必要です。

図表 104 あなたは、札幌が観光地として評価されることを誇りに感じますか。次の中から1つお選びください。（%）



出所) 札幌市調査

図表 105 札幌に多くの観光客が訪れることは、あなたにとって良い影響と悪い影響のどちらが大きいですか。（%）



出所) 札幌市調査